

第1期

徳島市地域福祉活動計画



社会福祉法人

徳島市社会福祉協議会

徳島市地域福祉活動計画策定にあたって



近年、少子高齢化や家族形態の変化などを背景に、地域のつながりの希薄化が進み、社会的孤立、生活困窮、8050 問題、ひきこもり、ヤングケアラーなど、地域や個人が抱える課題は多様化・複雑化しています。また、近年、毎年のように発生している豪雨災害や、南海トラフ巨大地震への対応など、大規模災害に対する対応も課題とされています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年近くもの間、さまざまな活動が制限され、人と人がつながる機会が減少し、地域福祉活動のあり方においても変化が見られました。

現在、各地区においては、地域の実情に応じた活動が創意工夫の上で再開されているところと存じますが、こうしたタイミングだからこそ、地域福祉活動計画を定め、住民の皆様とともに考え検討し、取り組んでいきたいと考えています。

この計画では、「住み慣れた地域で共に支え合い、誰もが自分らしく安心して暮らせるまちの実現」を目指し、「支え合いの意識を持った地域づくり」、「地域福祉の担い手づくり」、「包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり」、「安全で安心して暮らせる環境づくり」を基本目標として、住民の皆様、地域の関係団体・機関の皆様、行政の皆様と連携して、計画の実現に努力してまいりたいと思いますので、今後とも益々のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

住民の皆様一人ひとりが、性別や年齢、障害の有無にかかわらず、自分らしく安心して暮らせる地域社会が構築され、地域が活性化することを祈念しております。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり公私ご多忙の中、熱心に議論いただきました、徳島市地域福祉活動計画策定委員の皆様、地区計画策定ワークショップにご参加いただいた住民の皆様、関係機関の皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。

令和6年3月

社会福祉法人
徳島市社会福祉協議会

会長 本 田 利 広

目 次

第1章	計画策定の概要	1
1	計画策定の背景	
2	計画の目的	
3	計画の位置付け	
4	計画の期間	
5	計画の策定体制	
6	本計画における地域と地区の捉え方	
第2章	地域福祉を取り巻く現状	4
1	徳島市の現状	
2	徳島市社会福祉協議会における取組	
3	徳島市の地域福祉をめぐる主な課題と方向性	
第3章	計画の基本的な考え方	16
1	計画の体系	
2	基本目標	
3	評価指標	
第4章	施策の展開	19
基本目標1	支え合いの意識を持った地域づくり	
基本目標2	地域福祉の担い手づくり	
基本目標3	包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり	
基本目標4	安全で安心して暮らせる環境づくり	
第5章	地区計画	26
第6章	計画の推進に向けて	71
1	推進体制の構築	
2	計画の進行管理と見直し	
第7章	資料編	72
1	市民アンケート（徳島市実施）からみる現状	
2	事業所アンケート（徳島市実施）からみる現状	
3	社会福祉法人アンケート（徳島県社会福祉法人経営者協議会実施）から見る現状	
4	地域福祉に携わる様々な主体（徳島市地域福祉計画から抜粋）	
5	計画策定にあたって	

第1章 計画策定の概要

1 計画策定の背景

近年、少子高齢化や核家族化、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加等、家族形態の多様化により、生活への不安や援助を求める人が増加しています。また、社会経済情勢の変化に伴う価値観の多様化などを背景に、人と人とのつながりや、地域に対する関心の希薄化が問題となっています。

こうした社会変化を背景に、社会的孤立の問題、8050問題、ヤングケアラーなど地域で暮らしていくうえでの課題は、社会保障の領域を超えて複雑化・多様化しています。地域では、様々な事情で自分や家族だけでは解決が難しい課題を抱えながらも、支援を求めることができずに生活している人もいます。このような課題は、社会とのつながりや地域住民による支え合いが課題解決に向けた糸口となることもあります。公的サービスによる支援だけではなく、地域住民やボランティアなどによる支え合い・助け合いの仕組みも必要とされており、地域福祉活動に対する期待は大きなものになっています。

地域福祉活動を推進していくためには、地域住民が自分の住んでいる地域の強みや課題に関心を持ち、それを住民同士で共有し、多くの住民の参加を得ながら行動していくことが大切であります。

徳島市社会福祉協議会では、「住み慣れた地域で共に支え合い、誰もが自分らしく安心して暮らせるまちの実現」を基本目標に、令和6年度から令和8年度を計画期間とする「地域福祉活動計画」を策定し、住民同士の支え合い、助け合いによる地域福祉の推進に取り組みます。

2 計画の目的

社会福祉法第109条において、市町村社会福祉協議会は「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として明記され、住民が主体となる地域福祉活動を支援する中核団体として位置づけられています。

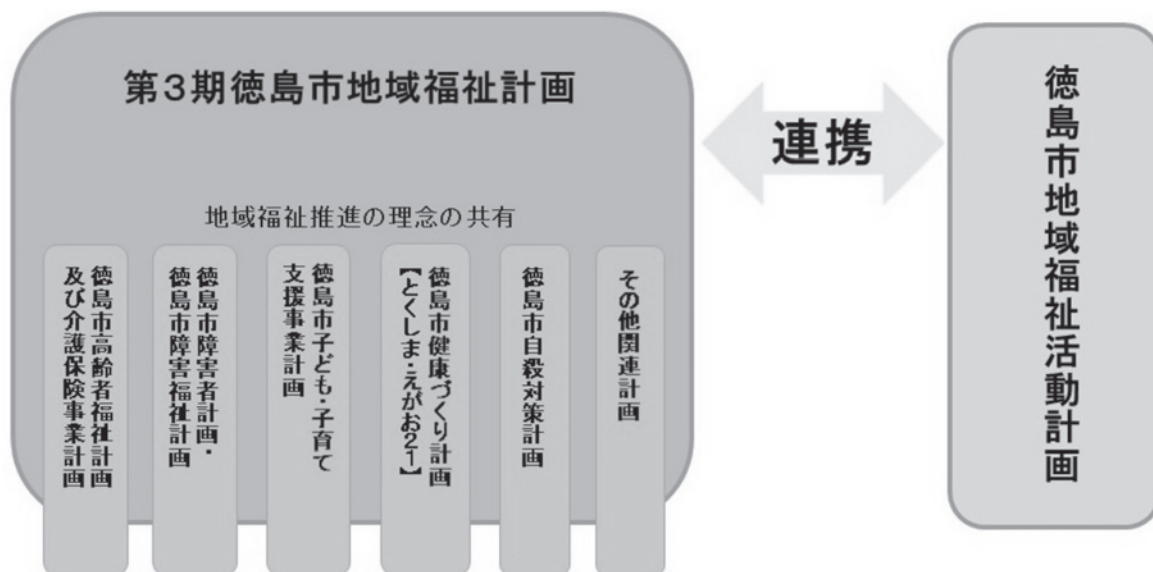
地域福祉活動計画は、社会福祉協議会が中心となって、住民の地域福祉への関心や意識を高め、地域福祉活動への参加を促すとともに、住民の協力や参加、協働による多様な地域福祉活動や福祉サービスの推進を図ることを目的としています。

3 計画の位置付け

徳島市地域福祉計画は、社会福祉法第107条の規定による市町村地域福祉計画と位置付けられます。この計画は、市町村が地域福祉の主体である住民等の参加を得て生活課題を明らかにするとともに、その解決のために必要となる施策を盛り込む行政計画です。

一方、地域福祉活動計画は、地域福祉を実践するためのアクションプランです。地域福祉計画と一体的に策定、その内容を一部共有し、相互に連携を図りながら進めていきます。

〈関連計画との関係〉



4 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度から令和8年度までの3年間とし、次の第2期計画においては、徳島市が策定する徳島市地域福祉計画の計画期間にあわせます。

なお、期間中に社会経済情勢や制度改正等、状況が変化した場合には、必要に応じて計画の見直しを行います。

5 計画の策定体制

(1) 社会福祉法人徳島市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会

本計画を策定するに当たり、各分野の福祉団体関係者、学識経験者、行政関係者等を委員とする「社会福祉法人徳島市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、計画の策定及び地域福祉に関する施策の推進について審議を行い、その意見を計画に反映します。

(2) アンケートの活用

第3期徳島市地域福祉計画策定にあたり、徳島市が実施した「地域福祉に関する徳島市民アンケート」「地域福祉に関する事業所アンケート」の結果を、計画策定の資料としました。

また、徳島県社会福祉法人経営者協議会が実施した「アクションプラン 2025 tokushima Version」策定にあたっての法人アンケートなど、関連するアンケート結果を、資料として活用しています。

6 本計画における地域と地区の捉え方

本計画における「地域」とは、「徳島市地域福祉計画」と同様に、一定の範囲や特定の地域を意味するものではありません。隣近所や町内会、学校区等の生活圏を捉えた「暮らしの空間」としての地域をはじめ、ボランティア、NPO、事業者等の活動を中心とした「活動の空間」としての地域があります。

また、人の営みや様々な活動が行われる範囲は、それぞれが重なり合いながら、住民相互のつながりや交流、助け合い等が必要になります。

こうした範囲を「地域」と捉えるほか、徳島市全体を対象にした活動や施策を展開する場合は、徳島市全体を「地域」と捉えます。

一方で、各地区の福祉活動計画における「地区」とは、地区社会福祉協議会における対象地区となっており、行政地区単位と一致します。

第2章 地域福祉を取り巻く現状

1 徳島市の現状

(1) 人口・世帯の状況

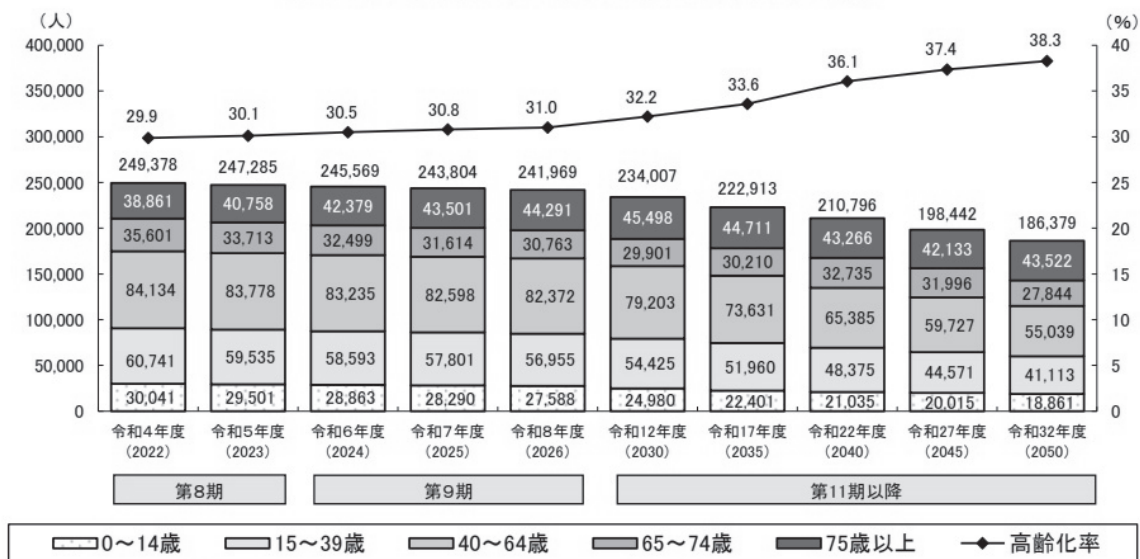
①人口の状況

令和5年10月1日現在の総人口は247,285人で、今後、総人口は減少する一方、高齢者人口は令和7年まで増加し、後期高齢者人口は令和12年度まで増加することが見込まれます。

また、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22年には、高齢化率が36.1%となり、高齢者1人を現役世代（15～64歳）の約1.5人で支える社会になることが予測されます。

〈人口と高齢化率の推移〉

【人口及び高齢化率の推移と推計(年齢5区分)】



資料：各年度10月1日現在（住民基本台帳）。令和4、5年度は実績。令和6年度以降はコーホート要因法による推計

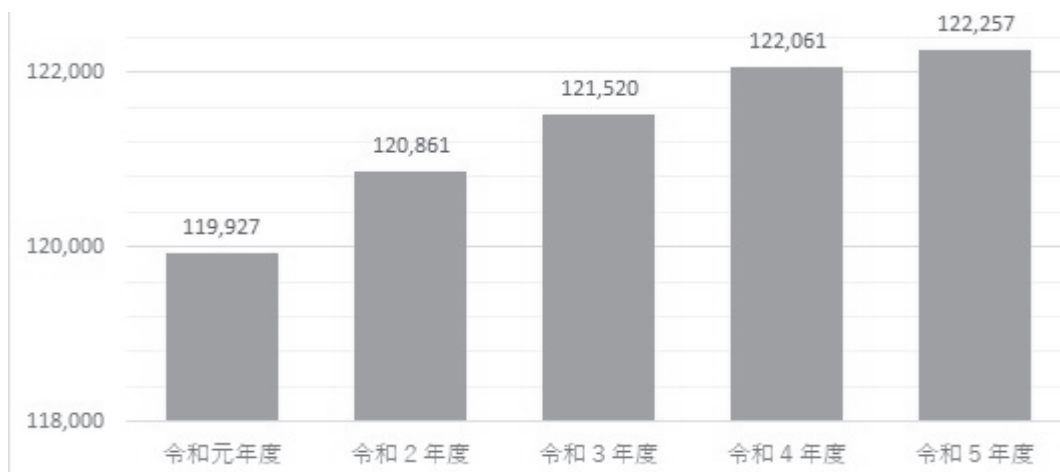
資料：各年度10月1日現在（住民基本台帳）。令和4・5年度は実績。令和6年以降はコーホート要因法により独自推計。

出典：第9期徳島市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画（素案）

②世帯の状況

世帯数は、令和元年の119,927世帯から令和5年には122,257世帯と増加しています。人口の減少に関わらず世帯数が増加していることから、徳島市でも核家族化・高齢化に伴う夫婦のみの世帯や一人暮らし世帯等の増加が生じていると推測されます。

〈世帯数の推移〉



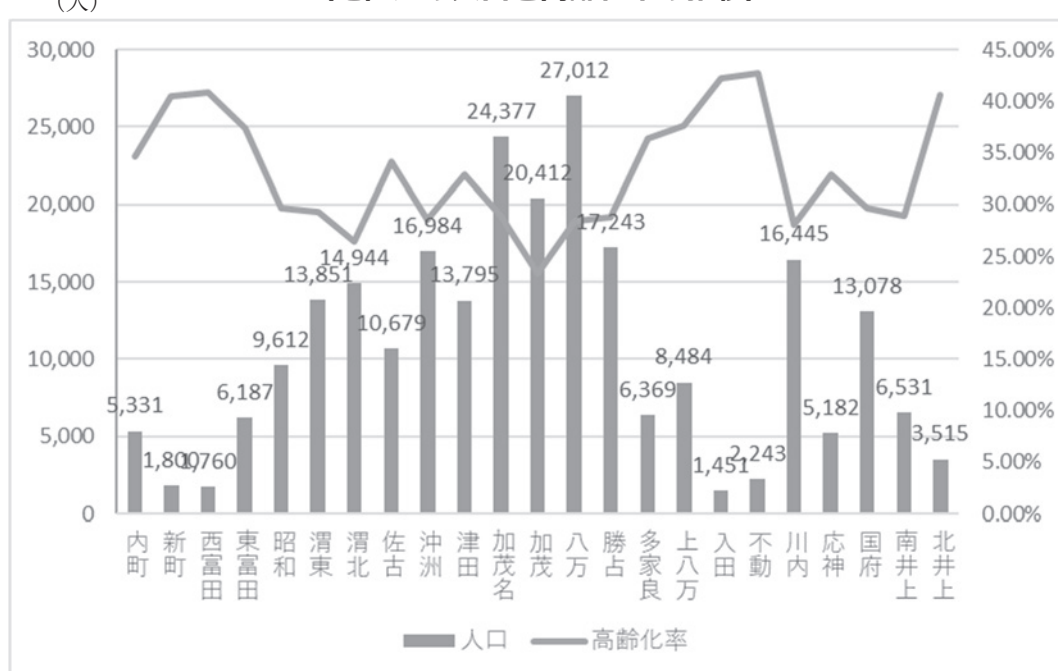
資料：住民基本台帳人口（各年度10月1日現在）

③地区別の人口の状況

地区別の人口は、人口が最も多いのは八万地区で27,012人となっており、最も少ないのは入田地区で1,451人となっています。

また、高齢化率は不動地区が42.3%と最も高く、加茂地区が23.3%と最も低くなっています。

〈地区別の人口と高齢化率の推移〉

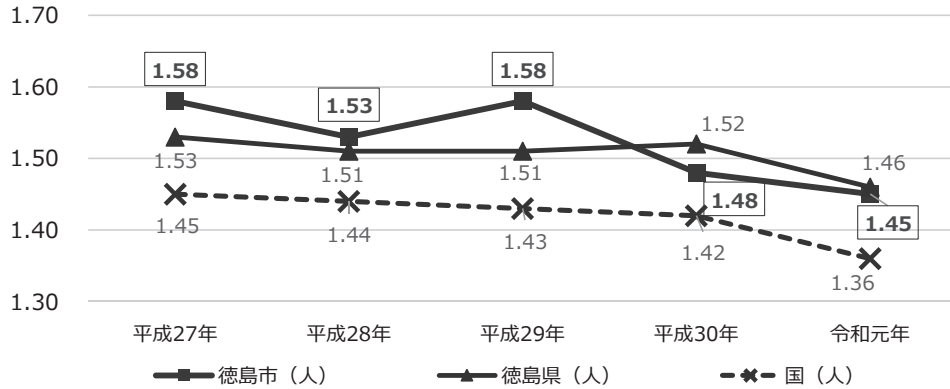


資料：住民基本台帳人口（令和5年10月1日現在）

(2) 子どもの状況（合計特殊出生率）

徳島市の合計特殊出生率は、平成27年の1.58から令和元年には1.45となっています。

〈合計特殊出生率の推移〉



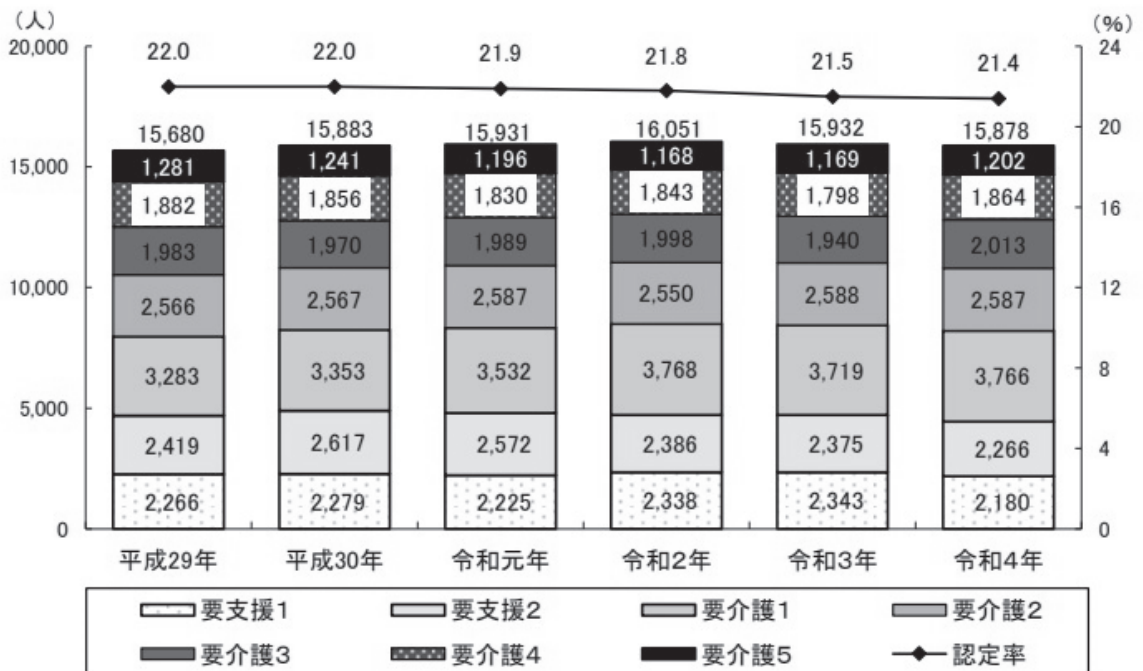
厚生労働省「人口動態調査」「人口動態統計特殊報告」、徳島市は独自算出
出典：第3期徳島市地域福祉計画

※合計特殊出生率とは一人の女性が15歳から49歳までに産む子供の数の平均を示す。

(3) 要介護（要支援）認定の状況

認定者数は令和2年まで増加傾向ですが、それ以降は減少に転じています。また、認定率は徐々に下がっています。

〈要介護（要支援）認定者の推移〉

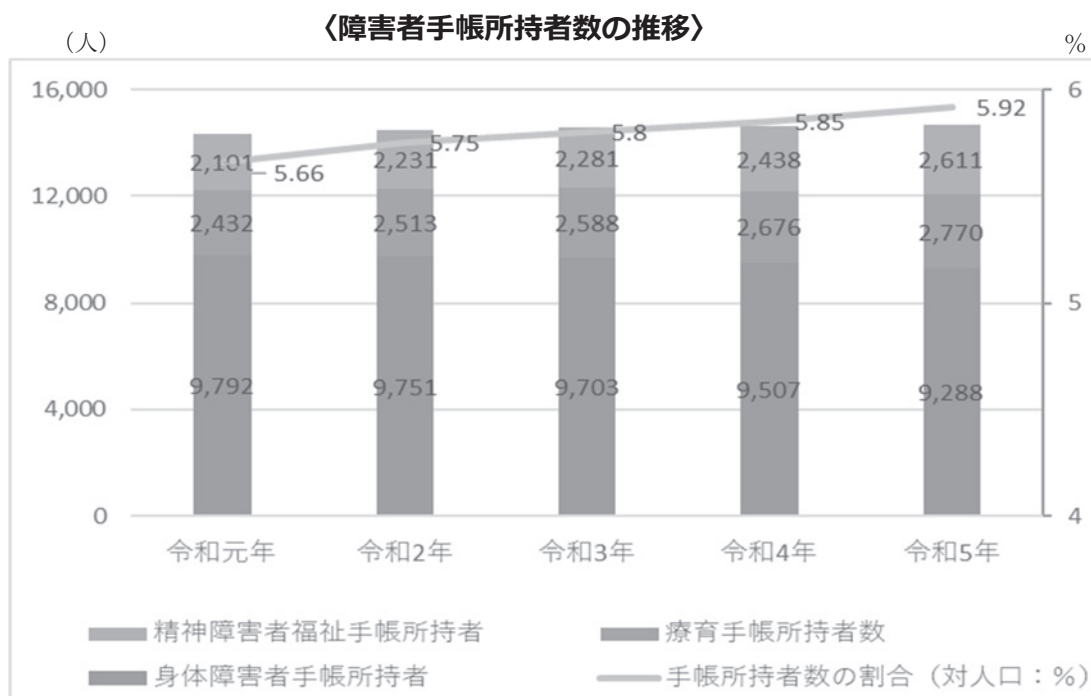


資料：資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」各年9月末現在
第1回徳島市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画策定委員会資料

(4) 障害者手帳所持者数の状況

徳島市の身体障害者手帳所持者数は、令和元年度以降減少しています。一方で、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者数は、年々増加傾向にあります。

また、これら手帳所持者数の人口に占める割合は、令和元年度の5.66%から令和5年度には5.92%と増加しています。

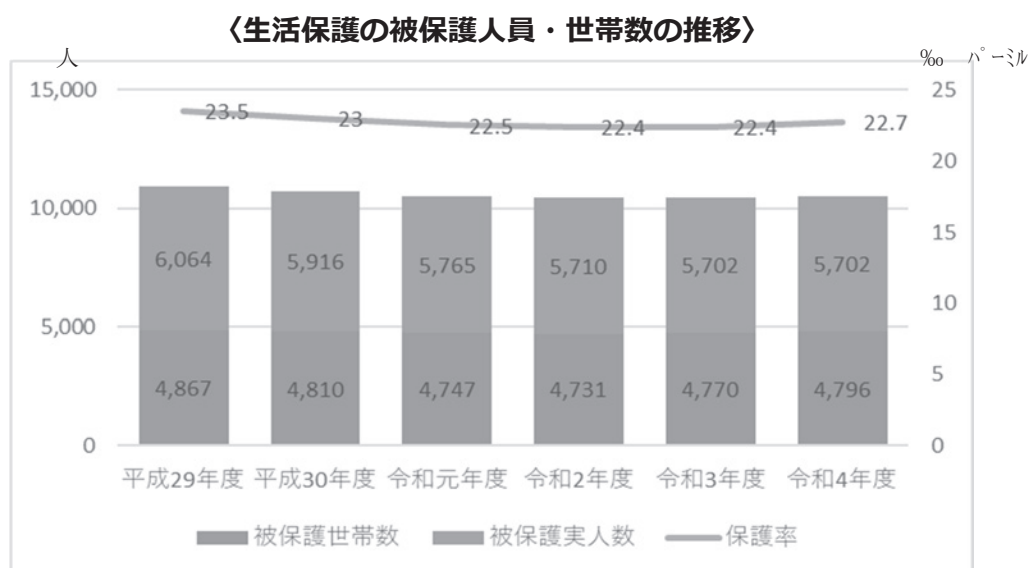


資料：障害者福祉計画策定委員会資料、住民基本台帳人口（各年度4月1日現在）

(5) 生活支援の状況

①生活保護の被保護人員・世帯数

徳島市の生活保護の被保護人員は、平成29年度の6,064人から令和4年度には5,702人と減少しています。また、保護率もほぼ横ばい傾向にあります。

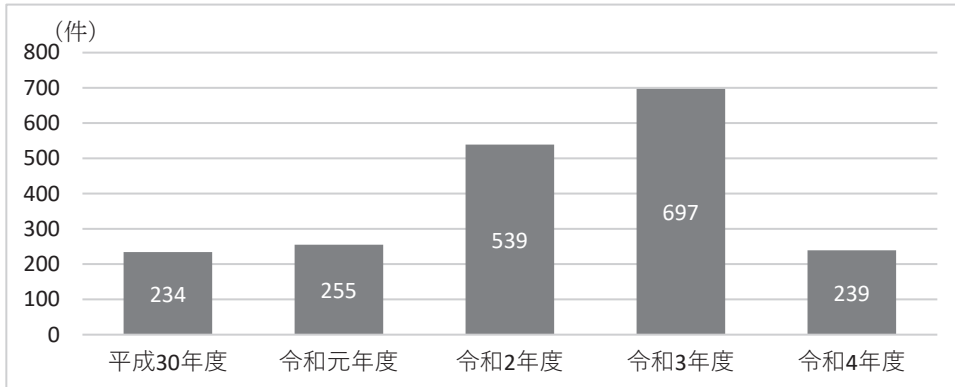


資料：生活福祉第一課

②生活困窮者自立相談支援事業の利用状況（徳島市社会福祉協議会）

生活困窮者自立相談支援事業の新規相談件数は、新型コロナウイルス感染症による影響により特例貸付や住居確保給付金の相談が急増しましたが、令和4年度以降はコロナ前の相談件数に落ち着きつつあります。

〈生活困窮者自立相談支援事業の新規相談件数の推移〉

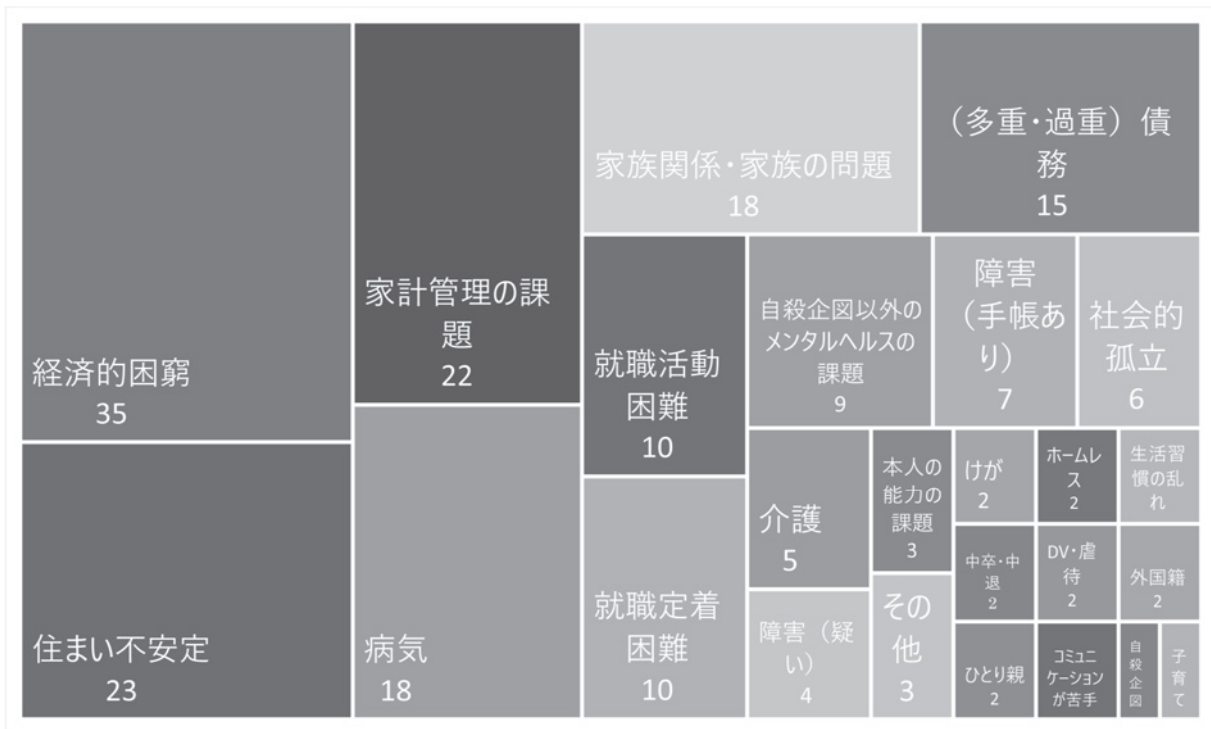


資料：徳島市社会福祉協議会

令和4年度の初回評価において判明した課題や特性については、下図のとおりです。課題は複合的で、一人当たり、3.61件の課題や特性が判明しています。

〈生活困窮者自立相談支援事業の初回相談時に判明した課題と特性（令和4年度）〉

合計件数 = 236 件、実人数 = 57 人、平均 = 3.61 件

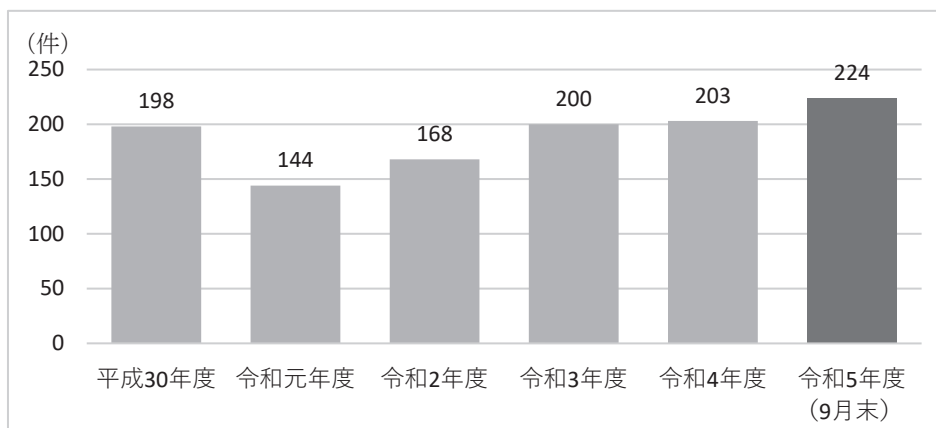


資料：徳島市社会福祉協議会

③ 成年後見制度についての相談件数及び相談内容（徳島市社会福祉協議会）

延相談件数は、令和3年度以降、年間200件程度で推移してきましたが、令和5年度に徳島市権利擁護センター（中核機関）の支援方針検討会議等をスタートしたところ、一般相談に加えて、相談機関や支援機関からの相談が増加し、上半期が終了した時点で200件を上回っています。

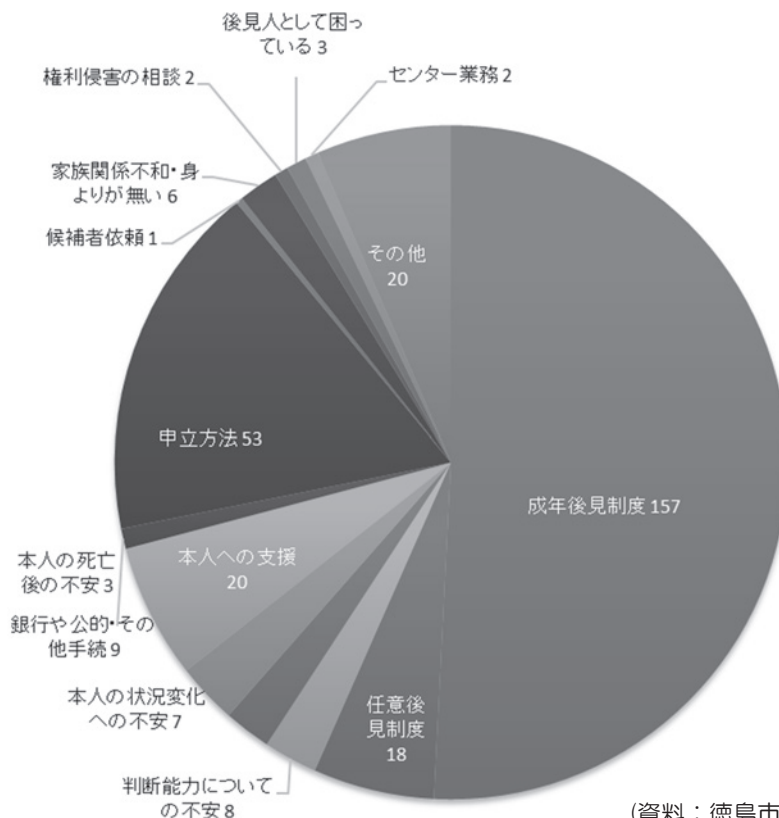
〈成年後見制度についての延相談件数の推移〉 単位：件



資料：徳島市成年後見支援センター・徳島市権利擁護センター（令和5年9月30日現在）

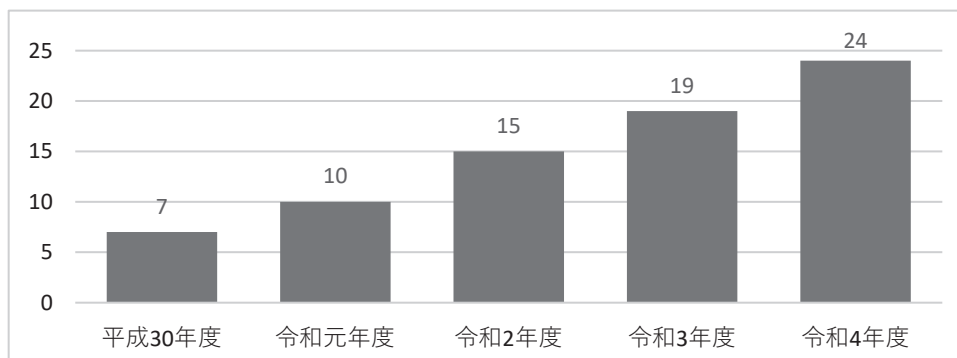
徳島市成年後見支援センターにおける令和4年度の相談件数は203件で、本人・家族・親族からの相談が約6割を占めます。成年後見制度や申立方法の相談が多数ですが、本人や家族が高齢となったことから判断能力や将来の不安の声が聞かれました。

〈令和4年度 徳島市成年後見支援センター一般相談の内容〉（複数回答） 単位：件



（資料：徳島市社会福祉協議会）

〈徳島市社会福祉協議会における法人後見受任件数の推移〉 単位：件 各年度末現在



資料：徳島市社会福祉協議会

2 徳島市社会福祉協議会における取組

徳島市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせる地域づくりの実現を目指して」を理念とし、次の4つの基本方針に基づき事業を推進しています。

(1) 組織基盤の強化と福祉啓発活動の推進

理事会・評議員会の組織運営及び財務・人事・労務などの法人運営を適切に行うとともに、更なる会員の確保や賛助会員をはじめとする企業や他の社会福祉法人との連携強化を図り、本会事業の啓発や財源確保、公益活動の推進に努めています。

	事業名	内容
1	法人運営事業	適切な法人運営や事業経営を行うとともに、総合的な企画、各部門の調整を行います。
2	市社協広報活動事業	社協だよりやホームページを通して、社会福祉協議会の役割や活動を周知し、啓発活動の強化に努めます。
3	社会福祉大会開催事業	社会福祉関係者、地域住民が一堂に会し、地域福祉の推進に向けて交流を深めるとともに、本市社会福祉の増進に功績のあった方々を表彰します。
4	善意銀行事業	寄付金の受入れなどを通じて市民の社会福祉への参加・貢献を促進します。

(2) 地域福祉活動の推進

地域共生社会の実現に向け、地区社協活動への積極的な住民参加を推進するとともに、多様化する地域課題へ適切に対応できる包括的な支援体制の充実や地域福祉の担い手の育成に取り組んでいます。

	事業名	内容
1	地区社協事業	地区社協の行う、高齢者食事サービス事業や高齢者友愛訪問事業等の地域福祉活動に対し、事業費の一部を補助し、活動を支援します。
2	ふれあい相談センター事業	福祉関係だけでなく、日常生活上の悩みごとなどの相談に応じます。
3	ボランティア活動事業	ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティア活動に関する相談・受付・情報提供などを行います。
4	災害ボランティアコーディネーター養成事業	大規模災害に備え、復興支援において地域の核となる災害ボランティアコーディネーターを養成します。
5	福祉関係団体事業	福祉関係団体に対し、運営費の一部を支援します。
6	共同募金配分金事業	地域福祉活動推進のため、共同募金配分金を各地区社協に配分します。
7	民生委員業務委託事業	徳島市から委託を受け徳島市民生委員児童委員協議会会長定例会を開催しています。
8	生活支援体制整備事業	生活支援コーディネーターを配置し、地域住民の支え合い活動を支援します。
9	地域福祉活動計画策定事業	地域住民や関係機関・団体等と協力して地域の福祉課題を解決するための具体的な活動計画を策定します。

(3) 福祉サービス等利用支援の推進

福祉サービス利用者等の援助や、福祉・生活課題を抱える人々への相談窓口の充実や相談機能の強化及び関係支援機関との連携強化、また広報紙やホームページ等による情報提供体制の強化に取り組んでいます。

	事業名	内容
1	生活福祉資金貸付事業	低所得世帯・障がい者世帯・高齢者世帯等に対し、資金貸付と相談・支援を行うことにより、世帯の経済的自立や在宅福祉・社会参加の促進を図ります。
2	小口生活資金貸付及び入学支度資金事業	生活の安定と福祉の増進、小・中学校へ入学する児童の就学向上を図ることを目的として行います。
3	日常生活自立支援事業	判断能力が不十分な方に対し、福祉サービスの利用援助、金銭管理サービス等を支援計画に基づき行います。
4	権利擁護等支援事業	認知症や障がいなどにより判断能力が不十分な方が安心して生活できるよう、成年後見制度の普及啓発や利用や手続き等に関する支援を行っています。 また、成年後見制度の中核機関となる徳島市権利擁護センターの運営を行っています。

5	生活困窮者自立支援事業	徳島市や関係機関と連携し、生活困窮者の課題が解決できるよう、相談者に寄り添いながら、自立に向けた支援を行っています。また、他の相談支援機関とのネットワークを構築し、地域における総合相談・生活支援体制の確立を目指しています。
---	-------------	---

(4) 在宅福祉サービスの充実

高齢者や障がい者などの国の制度に基づく福祉サービスや市からの委託・補助に基づくサービスの充実を図るとともに、社会的動向に関する迅速な情報収集に努め、社会福祉協議会の使命を果たすことが出来るよう、健全な在宅福祉サービスを提供しています。

	事業名	内容
1	身体障害者在宅福祉事業	身体障がい者が自立した生活を送り、積極的な社会参加が図れるよう、身体障害者支部に対する活動費の助成等を行います。
2	知的障害者在宅福祉事業	知的障がい者が自立した生活を送り、積極的な社会参加が図れるよう、夏季及び年末激励事業を行います。
3	老人在宅福祉事業	在宅の高齢者が住み慣れた地域で、健康で安心した生活が送れるよう、寝たきり高齢者介護者激励事業や認知症予防講座を行います。
4	母子家庭在宅福祉事業	母子家庭の方を対象に健康保持や生活の安定と自立の促進を目的として、親子ふれあい遠足を実施します。
5	地区社協事業【再掲】	地区社協の行う、高齢者食事サービス事業や高齢者友愛訪問事業等の地域福祉活動に対し、事業費の一部を補助し、活動を支援します。
6	徳島市移動支援事業車両移送型	公共交通機関等の利用が困難な障がい者等に対し、福祉自動車を運行することにより社会参加を促進します。
7	福祉電話相談センター事業	福祉電話の被貸与者を対象に、電話による安否の確認、各種相談サービス業務を行います。
8	訪問介護事業	要介護・要支援の認定者を対象に、訪問介護員（ホームヘルパー）を派遣し、入浴・排泄・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事を行います。 また、障害者総合支援法に基づき、ホームヘルパーを派遣し、身体介護、家事援助、通院介助等を行います。
9	居宅介護支援事業	在宅の要介護認定者を対象に居宅サービス計画（ケアプラン）を作成します。 また、徳島市地域包括支援センターより委託を受け、介護予防サービス支援計画を作成します。

3 徳島市の地域福祉をめぐる主な課題と方向性

各種統計やアンケート結果（資料編参照）などを踏まえ、本市の地域福祉をめぐる主な課題と方向性について、下記のとおり整理しました。

（1）地域コミュニティの維持と強化

◆統計資料によると、

- ① 総人口が減少する一方で、高齢者数及び世帯数が増加していることから、核家族化・高齢化に伴う夫婦のみの世帯や一人暮らし世帯等の増加が生じていると推測されます。
- ② 高齢化率は、地区により 23.2%～42.3%と大きく異なっています。

◆アンケート（徳島市実施）によると、

- ① 市民の2割の人が「近所づきあいが減っている」と回答し、また、市民の3割の人が「他世代との交流の機会がない」と回答しています。
- ② 住民が取り組むべきことを尋ねたところ、市民の4割、事業所の8割の人が「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」と回答しており、隣近所を含む地域の人々と交流を深め、お互いに助け合えるような関係性づくりが必要です。
- ③ 住民同士の自主的な支え合いや助け合いは「必要であり、できる範囲で協力したい」といった意向もみられます。

以上から、地域への関わりが薄い若い世代やひとり暮らしの高齢者、人との関わりが苦手な人が集える場が不足しており、居場所づくりとつながりのきっかけづくりや、様々な世代の交流の機会や拠点となる場の確保が必要です。

また、こうした取組は、地域の実情に応じた内容である必要があります。

◆徳島市社会福祉協議会の取組

地区社会福祉協議会（※）の行う、高齢者食事サービス事業や高齢者友愛訪問事業等の地域福祉活動に対し、事業費の一部を補助し、活動を支援しています。また、地区社会福祉協議会連絡協議会の事務局を担い連絡調整や研修などに取り組んでいます。

地区社会福祉協議会と連携しながら、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）やボランティアコーディネーター配置の強みを活かし、地域の方の声を直接聞くとともに、福祉教育やボランティアセンターの活動や SNS やホームページを活用して幅広い年代とつながり、地域の交流の場づくり等のコーディネート等の機能を担っていく必要があります。

※「地区社会福祉協議会（地区社協）」とは、暮らしの中にある地域の福祉課題に対して、そこで暮らす方々の「つながり」を活かしながら活動を展開する住民主体の組織で、行政地区ごとに全部で23の地区社協が活動しています。

(2) 地域福祉を支える担い手の育成・確保

◆統計資料によると

- ① 総人口が減少する一方で、高齢者数及び世帯数が増加していることから、核家族化・高齢化に伴う夫婦のみの世帯や一人暮らし世帯等の増加が生じていると推測されます。（再掲）
- ② 徳島市の合計特殊出生率は、令和元年には1.45となっています。

◆アンケートによると

市民の地域福祉活動への参加状況はいずれも1割に満たず、参加希望もいずれも1~2割程度と、時間的な問題や体力的な負担感が参加の障壁になっています。

以上から、75歳以上人口を除いて減少する中、「支えて」「受け手」に分かれた社会から全ての人々が一人一人の暮らしと生きがいや役割を共につくることが重要となっています。

また、すべての世代の参加者を増やすため、若い世代の方にも興味を身ってもらえる福祉教育の推進、地域福祉の啓発を行い、住民の方々及び地域の多様な主体が地域の担い手となれるような取組を推進することが必要です。

◆徳島市社会福祉協議会の取組

地区社会福祉協議会など地域で活動する各種団体・組織において後継者不足が課題となる一方、NPOや企業、ボランティア団体など多様な主体による取組が広がっています。

徳島市社会福祉協議会では、地区社会福祉協議会や民生委員児童委員とのつながりに加えて、地域での支え合い活動などをコーディネートする生活支援体制整備事業やボランティア活動事業、福祉教育を担ってきた強みがあります。

これらの強みを活かして、人口の約3割を占める65歳以上への働きかけや情報提供を行うとともに、子どもを含めた全世代に対して福祉教育やボランティア活動を推進することで、多様な担い手を確保する必要があります。

(3) 包括的な相談支援体制の充実と複合化・複雑化するニーズへの対応

◆統計資料によると

- ① 総人口が減少する一方で、高齢者数及び世帯数が増加していることから、核家族化・高齢化に伴う夫婦のみの世帯や一人暮らし世帯等の増加が生じていると推測されます。（再掲）
- ② 生活困窮者自立事業の相談では、経済的困窮だけでなく、家族関係や家族の問題、病気やメンタルヘルスの問題、障害などの課題や特性が1件あたり3.61件あり、それらは複合化していることがわかります。

◆アンケート（徳島市実施）によると、

- ① 市民の2割の人が「近所づきあいが減っている」と回答し、また、市民の3割の人が「他世代との交流の機会がない」と回答しています。（再掲）
- ② 市民の4割の人が、家の周りに災害時に支援を必要としそうな方は住んでいるか「わからない」と回答しています。
- ③ 市民の6割近くが、成年後見制度の「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」「全く知らない」と答えています。
- ④ 市民・事業所ともに4割の人が地域づくりのために必要な支援策として「福祉に関する総合相談窓口を設ける」と回答しています。

◆社会福祉法人アンケート結果（徳島県経営協実施）によると、

- ① 複合化・複雑化する課題への対応について、社会福祉法人の役割として、「他機関とのネットワーク活動」「地域の社会的な要援護への支援」「福祉教育活動」「地域活性化の取組」「他法人・団体等との共同事業」などがあげられ、社会福祉協議会の役割として、「支援のまとめ役」「活動の方向性を示しコーディネートする」など連携の核となり運営の調整を行うことが期待されています。

以上から、地域の方々が、気軽に相談できる仕組みづくりが必要と考えます。本会では地域で暮らす中で、孤立やSOSに気づき、必要に応じて適切な行政機関や相談機関につなぐ、「つながりワーカー」の養成講座を令和5年度に開催しました。

まずは、地域の中で「つながりワーカー」のような存在を増やしていく必要があります。そのためには、住民同士の顔のみえる関係が前提となり、各地区で行われている広報や食事会、友愛訪問などの身近な取組が大切となってきます。

その上で、住民から適切な相談機関等につなぎやすい体制とすることが大切です。養成講座では、相談機関等につなぐ時の伝え方の解説がありました。地域福祉を担っている会福祉協議会は、相談先や困り事の解決に必要な制度等を把握し、住民の方々に情報を伝えていくとともに、相談機関等につなげようとした住民の方々が不安や困難を抱えたときにはサポートできる体制を整える必要があります。

◆徳島市社会福祉協議会の取組

地区社会福祉協議会や民生委員・児童委員との連携を密にしながら、生活福祉資金貸付事業、生活困窮者自立支援事業、日常生活自立支援事業、権利擁護等支援事業など多くの相談事業等を行っている強みを活かし、住民の方々に情報を届け、必要に応じて住民の方々の活動を支援していきます。

複雑化した生活課題に対して適切な支援が行えるよう、職員の専門性向上に必要な研修機会等を確保するとともに、関係機関とつながり連携を強化する必要があります。

第3章 計画の基本的な考え方

1 計画の体系

基本理念

住み慣れた地域で共に支え合い、
誰もが自分らしく安心して暮らせる
まちの実現

徳島市地域福祉計画の基本理念を共有し、これまでの取組や地域の現状や課題を踏まえつつ、将来の課題を見据えた基本目標や施策の方向性を定め、実現に向けて取り組みます。

基本目標

活動施策

1 支え合いの意識を
持った地域づくり

(1) 地区社会福祉協議会の活動支援と協働
(2) 生活支援コーディネート機能の強化

2 地域福祉の
担い手づくり

(3) 福祉教育の推進とボランティア活動の活性化
(4) 地域福祉活動を推進する組織・人材の育成

3 包括的な福祉サービス
提供の仕組みづくり

(5) 孤立やSOSに気づき、つながり、見守るしくみづくり
(6) 生活困窮者支援の実施と各事業・各機関との連携
(7) 権利擁護の推進
(8) 職員の専門性を活かし活躍できる職場づくりと各事業の連携

4 安全で安心して
暮らせる環境づくり

(9) 被災者支援に向けた連携体制整備
(10) 地域福祉活動の見える化、情報提供

2 基本目標

基本理念を実現するため、徳島市社会福祉協議会と地区社会福祉協議会が連携して取り組み、本計画を推進します。

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

住み慣れた地域で共に支え合うまちづくりを実現するためには、性別や年齢などに関わらず、お互いを認め合い、支え合い、助け合うことや、人と人との交流を通じた住民同士の良好な関係の構築に向けて、地域を知り、地域福祉活動に参加することが大切です。

生活支援コーディネーターやボランティアセンターの設置を生かすとともに、各地区計画と連携して、福祉について学ぶ機会や多くの人との交流の場づくりを推進します。

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

地域福祉の考え方は、すべての住民が福祉の担い手であり、同時に受け手でもあるという、「お互いさま」の精神の上に成り立っています。

ボランティアセンターを拠点として、ボランティア活動や福祉教育を推進するとともに、地域福祉活動を行う組織や住民をはじめ、ボランティアやNPOなどの活動に関わる多様な方とつながり、活動の情報提供や担い手と受け手をつなぐコーディネート機能を充実する必要があります。

基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

住民同士が、暮らしの中で孤立や小さなSOSに気づき、つなぎ、見守ることができるよう、基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくりや基本目標2 地域福祉の担い手づくりを推進します。また、民生委員児童委員や地区社会福祉協議会と連携するとともに、相談を受けた住民の方が安心して相談を受け、行政機関や相談機関につなげるよう、情報提供や各種研修などを行います。

徳島市社会福祉協議会では、生活福祉資金貸付事業、生活困窮者自立支援事業、日常生活自立支援事業、権利擁護等支援事業など多くの相談事業を行っています。

複雑化した生活課題に対して適切な支援が行えるよう、職員の専門性向上に必要な研修機会等を確保するとともに、関係機関と連携強化を推進していきます。

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

誰もが安全で安心して暮らせる環境をつくるためには、ハード面では行政の役割が不可欠ですが、災害や急病などの緊急時には地域の中で連携の取れた対応ができるよう、普段から地域づくりも大切にしていける必要があります。

地区社会福祉協議会と連携して、地域での見守り活動を推進するとともに、災害時に備え、普段の生活の中で地域での顔の見える関係づくりや支援が必要な方の把握も求められています。

3 評価指標

本市社会福祉協議会の各事業の実施状況とともに、成果指標として次の項目を掲げます。

〈施策の成果指標〉

項目	現状(令和5年度)	目標(令和8年度)
職員の専門性が向上したと回答した割合 (計画開始時期と評価時期における職員アンケートの比較)	—	80%以上
23 地区活動計画に掲げる施策を実施できた割合(各地区の実施評価※による)	—	A 及び B の評価が 80%以上

【※の評価基準】

A 完全に実施できた	8割以上の人が実施できたと感じている
B まあ実施できた	7割から8割の人が実施できたと感じている
C あまり実施できなかった	6割から7割の人が実施できたと感じている
D 全く実施できなかった	6割未満の人が実施できたと感じている

第4章 施策の展開

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

活動施策（1）地区社会福祉協議会の活動支援と協働

（1）地区社協事業

各地区社会福祉協議会において、民生委員児童委員等の構成団体と協力しながら、高齢者食事サービス事業や高齢者友愛訪問事業等の地域福祉活動が行われています。

コロナ禍では、訪問への変更やお祝い品の送付など形を変えながらも工夫をして行われていましたが、令和5年度は、実施方法の検討や改善を加えながら、段階的に人が集まる活動が再開されています。

徳島市社会福祉協議会では、地区の実情に応じた活動を支援するため、引き続き活動費の一部を補助や情報提供などを行います。

（2）地区社会福祉協議会連絡協議会（事務局）

同連絡協議会の事務局として、総会の他、地域福祉活動の中で必要となる研修会や先進地視察などタイムリーな交流や研修の場を、地区社会福祉協議会の会長等役員に相談しながら実施していきます。

（3）共同募金配分金事業

地域福祉活動推進のため、共同募金配分金を各地区社会福祉協議会に配分します。配分された募金は、地区こども会、福祉まつり、地域でのふれあい支援活動などに使われています。また、共同募金を活用して、令和5年度の新規事業である子どもの居場所「こころんほーむ」のように、地域課題を解決する事業を開発・実施していきます。

（4）災害ボランティアコーディネーター養成講座

災害時の復興支援に向けて、徳島市社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターと連携して、各地区において支援ニーズなどを把握し、活動するボランティアコーディネーターの養成を図ります。また、地区の中で支援ニーズを把握するためには、日頃からの福祉活動、住民同士の関係づくりが重要となるため、地域福祉のさまざまな事業も連携していきます。

（5）生活支援体制整備事業・ボランティア活動事業の連携

生活支援コーディネーター（生活支援体制整備事業）とボランティアコーディネーター（ボランティア活動事業）が連携して、地域福祉のニーズに応じたサービス開発を行います。令和5年度は、冬休みに子どもの居場所「こころんほーむ」を開催したほか、高校の

制服リユースを実施予定です。こうした実践を踏まえて、各地区社会福祉協議会に情報提供したり、連携しながら実施していきます。

活動施策（２）生活支援コーディネーター機能の強化

（１）生活支援コーディネーターの配置と人材育成

徳島市社会福祉協議会では、令和元年度から、地域資源やニーズを把握し、必要な支援とのマッチングを行う、生活支援コーディネーターを配置しています。令和５年度からは、生活支援コーディネーターを、令和４年度の１人（兼務）から、地区社協のブロックごとに各１人、合計４人（兼務）に増員しました。

地域福祉に関わる職員の数を増やし、各職員のノウハウや得意なことを活かして、点ではなく面として関わるのが可能な組織体制を目指していきます。また、生活支援コーディネーターだけでなく、ボランティアコーディネーター、各相談支援担当等と連携し、多様な視点を取り入れていきます。

組織としては、計画的な職員採用や人材育成を強化するとともに、協働しやすい職場風土の醸成を目指します。

（２）生活支援体制整備事業・ボランティア活動事業の連携【再掲】

生活支援コーディネーター（生活支援体制整備事業）とボランティアコーディネーター（ボランティア活動事業）が連携して、地域福祉のニーズに応じたサービス開発を行います。令和５年度は、冬休みに子どもの居場所「こころんほーむ」を開催したほか、高校の制服リユースを実施予定です。こうした実践を踏まえて、各地区社会福祉協議会に情報提供したり、連携しながら実施していきます。

基本目標２ 地域福祉の担い手づくり

活動施策（３）福祉教育の推進とボランティア活動の活性化

（１）福祉教育の推進

これまで実施してきた阪神・淡路大震災追悼イベントや災害ボランティア等の福祉教育を実施するほか、地域や学校等と連携して、現在の課題・ニーズを分析しながら、新たな福祉教育の開発を行います。

（２）災害ボランティアコーディネーター養成講座【再掲】

災害時の復興支援に向けて、徳島市社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターと連携して、各地区において支援ニーズなどを把握し、活動するボランティアコーディネーターの養成を図ります。また、地区の中で支援ニーズを把握するためには、日頃からの福祉活動、住民同士の関係づくりが重要となるため、地域福祉のさまざまな事業も連携していきます。

(3) 生活支援体制整備事業・ボランティア活動事業の連携【再掲】

生活支援コーディネーター（生活支援体制整備事業）とボランティアコーディネーター（ボランティア活動事業）が連携して、地域福祉のニーズに応じたサービス開発を行います。

令和5年度は、冬休みに子どもの居場所「こころんぼーむ」を開催したほか、高校の制服リユースを実施予定です。こうした実践を踏まえて、各地区社会福祉協議会に情報提供したり、連携しながら実施していきます。

(4) 善意銀行の活用

福祉教育の推進とボランティア活動の活性化に向けたメニューやサービス開発にあたって活用するとともに、広報を行うことで、市民の地域福祉への参加・貢献を促進します。

活動施策（4）地域福祉活動を推進する組織・人材の育成

活動施策（3）福祉教育の推進とボランティア活動の活性化を通じて、地域福祉活動を行う組織や住民をはじめ、ボランティアやNPOなどの活動に関わる多様な方とつながり、新たな担い手の育成、多様な主体による活動の情報提供や担い手と受け手をつなぐコーディネート機能を充実していきます。

基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

活動施策（5）孤立やSOSに気づき、つながり、見守るしくみづくり

(1) 気づき、つながり、見守る人材の養成

各事業の出前講座などを通じて、住民同士が暮らしの中で孤立やSOSに気づきあい、つながり、見守ることができるよう、必要な情報や機会を提供していきます。

(2) 地区社会福祉協議会との連携

地区社協事業の実施や地区社会福祉協議会連絡協議会の事務局である強みを活かして、地域福祉活動の中で必要となる情報や研修の場を提供していきます。また、地区社協福祉協議会と連携して、地域福祉活動計画を実施していきます。

(3) 民生委員児童委員との連携

民生委員児童委員活動の実践を推進し、地域福祉の増進を期するため、徳島市社会福祉協議会において事務局を運営しています。各種連絡調整、関係機関・団体等との連携・協力、研修会や会議の開催を通じて、活動を推進するとともに、民生委員児童委員等と事務局、関係団体・機関等の顔の見える関係づくりを行います。

(4) 地域で相談を受ける方々への支援

地区社会福祉協議会連絡協議会や民生委員児童委員協議会の事務局である強みや各種研修会の機会を通じて地域で支え合うために必要な情報を提供するとともに、各相談事業を実施している強みを活かして、住民が相談内容に不安を抱えることなく、必要に応じて行政機関や相談機関につなげることができるよう、サポートを行います。

活動施策（6）生活困窮者支援の実施と各事業・各機関との連携

(1) 生活困窮者自立支援事業

徳島市や関係機関と連携し、相談者の課題（生活困窮、住まいの不安定、病気、障がい、家族関係の課題など。8ページ参照）が解決できるよう、寄り添った相談支援を行っています。多様な課題に対応するため、権利擁護支援事業、日常生活自立支援事業、生活福祉資金貸付など各種事業との連携を推進していきます。

また、令和5年度からは、同事業の中で行ってきた、引きこもりの相談についても、相談窓口として周知できるよう体制の整備を進めています。これまでの関係機関がプランを検討する支援調整会議の他、徳島市が設置する引きこもり支援プラットフォームの構成機関等が中心となる、引きこもり支援に特化した支援会議を開催し、連携を進めていきます。

活動施策（7）権利擁護の推進

(1) 権利擁護センター（中核機関）の運営

誰もが住み慣れた地域で安心して生活ができる地域共生社会の実現に向けて、認知症・障がいなどにより判断能力が十分でない方の財産や権利を守り、支える仕組みである「成年後見制度」の利用促進を図ります。

具体的には、成年後見制度勉強会等への職員派遣、講演会の開催など制度の普及啓発とともに、専門職や行政機関の委員で構成する支援方針検討会議や候補者受任調整会議の開催、市民後見人の養成等、支援が必要な方が成年後見制度を利用できる仕組みを構築します。

(2) 成年後見支援センターの運営

相談員を配置し、成年後見制度の説明や、成年後見制度を利用するための手続きや、申立に関するアドバイスを行います。また、専門職（弁護士）相談を実施しています。必要に応じて、権利擁護センターと連携して対応します。

(3) 法人後見事業の実施

成年後見制度を必要とする方が適切に利用できるよう、法人後見事業を実施し、本会が持つネットワークや情報を活用し、適切な支援を行うことで、権利擁護を推進します。

活動施策（8）職員の専門性を活かし活躍できる職場づくりと各事業の連携

（1）職員の専門性を活かし活躍できる職場づくり

職員が自分らしいキャリアプランに基づき、スキルアップできるよう、職場内での対話を重ねながら、人材育成方針や研修計画の策定や必要な制度づくりを進めていきます。また、各人が自己の強みを知り、それを活かしていきいきと活躍できる職場風土の醸成を目指します。

（2）各事業の連携

多様な課題に対応するため、権利擁護支援事業、日常生活自立支援事業、生活福祉資金貸付など各種事業との連携を推進していきます。(1)を進めることで、各事業連携をより効果的なものとしていきます。

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

活動施策（9）被災者支援に向けた連携体制整備

（1）災害ボランティアセンター設置訓練とマニュアル・業務継続計画（BCP）の更新

災害時に、ボランティアの協力をえながら、地域復興につなげていくことを目的に設置される災害ボランティアセンターの設置訓練を実施し、マニュアルや業務継続計画(BCP)等を随時アップデートします。また、その機会を通じて、安否確認や参集方法、役割分担、業務の優先順位等を話し合い、理事会、評議員会でも共有していきます。

また、次の（2）で養成する災害ボランティアコーディネーターと連携した訓練を実施します。

（2）災害ボランティアコーディネーター養成講座【再掲】

災害時の復興支援に向けて、徳島市社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターと連携して、各地区において支援ニーズなどを把握し、活動するボランティアコーディネーターの養成を図ります。また、地区の中で支援ニーズを把握するためには、日頃からの福祉活動、住民同士の関係づくりが重要となるため、地域福祉のさまざまな事業も連携していきます。

（3）地区社会福祉協議会や民生委員児童委員活動との連携

災害時要援護者の情報や支援ニーズなど、地域住民でないと把握できない情報があります。日頃から地区での地域福祉活動を推進するとともに、災害時に住民同士や関係機関と連携できる関係づくりを推進します。

活動施策（10）地域福祉活動の見える化、情報提供

（1）市社協広報活動事業

社協だよりやホームページ・SNS で発信する内容を充実し、社会福祉協議会の活動や社会資源の見える化を図ります。

（2）生活支援コーディネーターや各事業担当職員が把握している情報の提供

生活支援コーディネーターを始め、各事業の担当職員は、支援する上で必要な、人、もの、制度など、多くの社会資源を把握しています。こうした情報を組織として共有し、必要な人に提供できる仕組みを整備します。

なお、安全で安心して暮らせる環境づくりは、日頃からの地域づくりや包括的な福祉サービス提供の仕組みづくりが欠かせず、各施策は相互に関係しています。

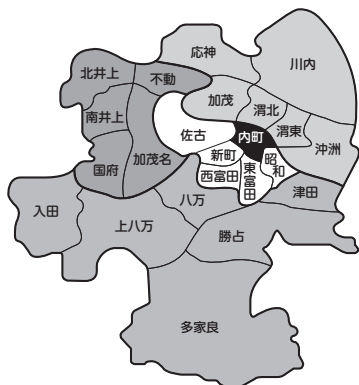
以上から、徳島市社会福祉協議会では、各活動施策を包括的に実施できるよう、理事会や評議員会、事務局内での対話や連携を強化しながら、組織基盤の強化や人材育成などに積極的に取り組みます。また、第5章の地区計画と連動しながら、地域福祉を推進していきます。

第5章 地区計画

地区計画 (目次)

① 内町地区	27
② 新町地区	29
③ 西富田地区	31
④ 東富田地区	33
⑤ 昭和地区	35
⑥ 佐古地区	37
⑦ 渭東地区	39
⑨ 沖洲地区	41
⑩ 加茂地区	43
⑪ 川内地区	45
⑫ 応神地区	47
⑬ 加茂名地区	49
⑭ 不動地区	51
⑮ 国府地区	53
⑯ 南井上地区	55
⑰ 北井上地区	57
⑱ 津田地区	59
⑲ 八万地区	61
⑳ 勝占地区	63
㉑ 多家良地区	65
㉒ 上八万地区	67
㉓ 入田地区	69

① 内町地区



徳島市のほぼ中央に位置し、徳島駅を中心に商業・業務施設が多く立地する地区です。

- 人口／世帯数 5,331人／2,903世帯
- 65歳以上人口 1,844人（34.6%）
- 15歳以下の人口 593人（11.1%）
- 人口密度 3,430人／km²
- 主な公共施設

徳島市役所、内町コミセン（幸町館・アミコ館）、内町小学校、内町保育所、JR 徳島駅、徳島中央公園 など
令和5年10月1日現在

地域の強み

- 徳島市の中心地で生活や交通の便利が良い。
- 文化・芸術の拠点となる新ホールが整備される予定である。
- イベント等への若者の参加が多い。
- 治安が良い。小学校の下校パトロール。
- 民生委員など行動力がある人が多い。
- 納涼祭、カラオケ大会など催し多数。



内町地区景観



夕涼み会

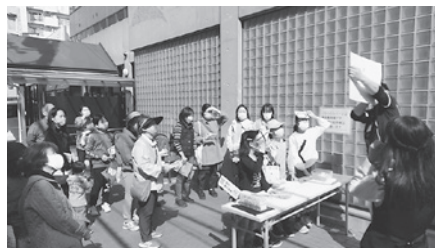
地区活動計画

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

福祉まつりの充実

- 令和4年度は、両国商店街での「防災まち歩き」と同時開催し、その後うどんやぜんざいの提供、防災クイズなどを実施。
- 楽しい餅つきなど、学生や若者に来てもらって、若い時から地域でのつながりをつくっていききたい。
- 内町幼稚園跡地で開催していたが、老朽化で使えなくなることが課題。



防災まち歩き



福祉まつり

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

防災マップの活用

- 内町地区は防災マップを作成済み。
- もう少し詳しく、それぞれがどこに避難するのかを検討していきたい。



基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

敬老会の実施

- 内町地区は社会福祉協議会と敬老育英会主催の敬老会が2回あるので、2倍祝ってもらえる。
- コロナでお祝いを用意して、取りに来てもらうようにすると参加者が増えた。
- 2つをうまく組み合わせていきたい。



敬老会



敬老会

基本目標2 地域福祉の担い手づくり
基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

必要な人に情報を伝える／地域のファンを増やす

- 本当に困ってる人は、催しなどに出て来ない。そういう人にどう情報を伝えるかが課題。
- 町内会のファンや班長みたいな存在をいっぱい作って細かい情報を届けることが大事。
- 相談内容により、市役所など公的機関に「助けて」とつなげられるようにしたい。

活動いろいろ

このような活動も行っています



なかよし会

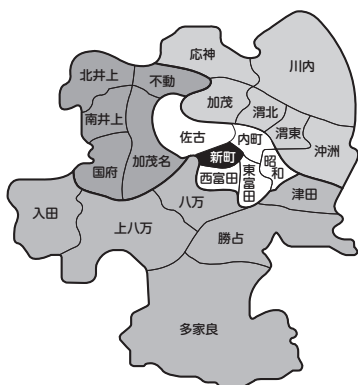


みどりんごのひろば

2

新町地区

中心市街地にあり、眉山や新町川、阿波おどりが会館など多くの観光資源を有する地区です。



- 人口／世帯数 1,800人／997世帯
- 65歳以上人口 728人（40.4%）
- 15歳以下の人口 116人（6.4%）
- 人口密度 1,660人／km²
- 主な公共施設

新町公民館、新町小学校、新町川水際公園、阿波おどりが会館、眉山ロープウェイなど

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 新町川（水際公園・ボードウォーク・マルシェ）では多数の催しが開催されている。また、阿波おどりが会館、眉山など観光資源が豊富。
- 中心市街地であり、交通の便がよく、商業施設や商店街がある。
- ホットカフェ、お花見、秋の遠足、敬老会、クリスマス宅配などの多様な催しがある。
- 友愛訪問など見守りがある。
- 新町小学校があり、連携が可能である。



新町公民館



阿波おどりが会館

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

高齢者を対象にした食事会の充実

- 新町地区は75歳以上の高齢者が多い地区である。一人暮らし高齢者のお食事会は力を入れてやってきた。
- コロナで中止となっていたが、今後はメニューや対象者、運営を誰が担うかなども考えながら、充実を図りたい。



藍場浜公園お花見

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

ウォーキングを実施

- 毎月1回に眉山に登るウォーキングを実施している。
- 年齢に関係なく、参加できるのが魅力。
- 眉山だけでなく、中央公園など行き先を多様にして、多くの方が参加できるように声かけをしていきたい。



眉山ウォーキング

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
基本目標2 地域福祉の担い手づくり

餅つき大会の開催

- 子どもから大人まで楽しめる餅つき。
- 新町小学校と連携して多くの子どもが参加できるものにしていきたい。
- 広報に力を入れる。



餅つき大会

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

防災訓練の実施

- 2か月1回、発電機や防災用具の点検を実施している。
- 上記にあわせて、消防局や市の危機管理課の協力を得て、防災意識が高まるような訓練や研修会などを行ってきたい。



防災訓練

活動いろいろ このような活動も行っています

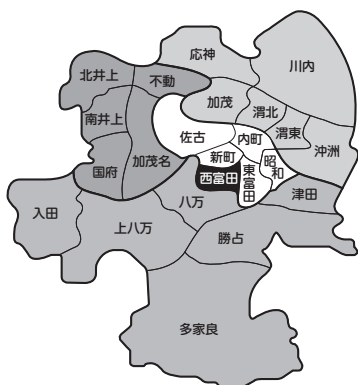


大阪市立阿部野防災センター研修会



救急救命講習

③ 西富田地区



中心市街地の南西部を占め、市内で最も狭い地区で、眉山麓には寺社が並びます。

- 人口／世帯数 1,760人／1,076世帯
- 65歳以上人口 719人（40.9%）
- 15歳以下の人口 125人（7.1%）
- 人口密度 6,800人／km²
- 主な公共施設
西富田コミセン、西富田公民館など

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 中心市街地であり、交通の便がよく、閑静な住宅街で、治安のいい地域です。
- 市内で最も小さい地区である特性を活かしてきめ細やかな取組が可能である。
- 一人暮らしの食事会、敬老会、100歳体操、美術展、コミセンまつりなど多くの取組がある。
- 地域のつながりがあり、地域での見守り、消防団の活動も活発である。



西富田地区



西富田消防団

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

敬老会の開催

- 以前は食事会をしていた。コロナ禍では、記念品を取りに来ていただいている。
- 引き続き、内容など検討して、実施していく。



敬老会

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

コミセンまつりの開催

●0歳の子どもから高齢者まで参加できる催し。3年ぶりに開催すると、地域住民が約1800人の中、180人が参加。新町小学校の協力で、多数の子どもの参加もあり、盛況だった。

●取組を強化して、いろんなことをしていきたい。



コミセンまつり

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

広報紙の充実

●年3回広報誌を発行（公民館、コミセン、社協が実施）。

●地域住民の方が、楽しめる内容を広報誌に載せられるよう工夫をしていきたい。



広報紙

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

防災訓練の参加者を増やす

●防災訓練を実施し、防災意識の向上している。また防災士を増やしていきたい。

（R5.3月現在 8名）

●防災訓練をもっと周知して、より多くの住民の方に参加してもらい、一人ひとりが避難場所や家族等との連絡方法を話し合っている地域にしていきたい。



防災訓練

活動いろいろ

このような活動も行っています



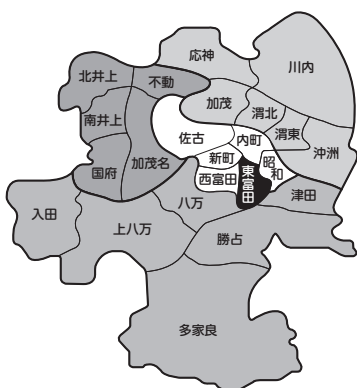
西富田を歩こう



百歳体操

4

東富田地区



中心市街地の南部を構成し、新町川、御座船川、眉山山麓に接する、商業地域です。

- 人口／世帯数 6,373人／3,743世帯
- 65歳以上人口 2,319人（36.4%）
- 15歳以下の人口 578人（8.4%）
- 人口密度 2,950人／km²
- 主な公共施設
東富田コミセン、富田保育所、富田小学校、JR阿波富田駅など

令和4年1月1日現在

地域の強み

- 中心市街地であり、交通の便がよく、商業施設が発達している。
- 学校、神社や銀行、店舗等と連携が可能である。
- 子ども神輿、阿波おどりなど伝統が継承されている。
- 地域の各団体が積極的に活動している。高齢者の訪問なども充実している。



ほなけんど連



裁縫教室

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

友愛訪問の強化

- コロナ禍では、食事会ができないかわりに友愛訪問の回数を増やしてきた。
- 食事会は20人程度の参加だったが、訪問にすると165人の高齢者の方にお会いでき、楽しみにしていただいている。
- 引き続き、友愛訪問を強化していきたい。



友愛訪問

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

ふれあいカフェの開催

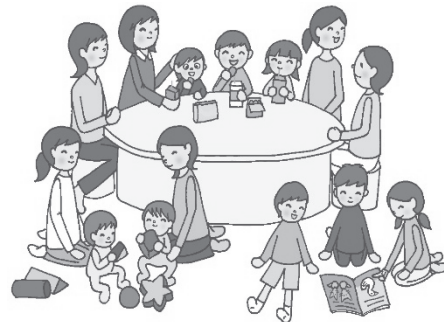
●誰でも気軽に相談に来たり、交流したりできるように、“この日は何時から何時まで、いつでも来てお茶をして、お話をして、皆さんとふれあいましょう”という「ふれあいカフェ」をしていきたい。



- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

おしゃべりカフェの開催

●子どもがいる方で、「誰に話したらいいのだろう」「友達どこで作ったらいいんだろう」と思われる方が多いとの声を聞く。
 ●コミセンを開放してお話できる「おしゃべりカフェ」のようなのもしていきたい。



- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり
 基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

防災マップの活用

●富田小学校の協力を得て、街歩きをして、防災マップも仕上がった。
 ●町歩きを定期的に小学校と協働して行うとともに、各所団体の方とも一緒に、具体的に何ができるかなど話あっていきたい。



防災町歩き

活動いろいろ このような活動も行っています



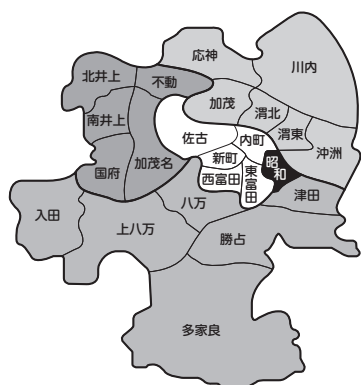
花苗配布



座禅教室

5

昭和地区



中心市街地の南東に位置し、官公署や商業地のほか、閑静な住宅地が広がる地区です。

- 人口／世帯数 9,612 人／5,124 世帯
- 65 歳以上人口 2,848 人 (29.6%)
- 15 歳以下の人口 1,082 人 (11.3%)
- 人口密度 4,820 人／km²
- 主な公共施設

昭和コミセン、昭和保育所、昭和小学校、富田中学校、徳島県庁、徳島中央子ども女性相談センターなど

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 中心市街地に隣接し、県道沿いの路線バス（徳島小松島線）の本数も多く、利便性に優れている。
- 住宅地が多く、人口密度は市の平均値を大きく上回る。
- 地区内の団体が主催する、福祉まつり、文化祭、運動会、防災活動、敬老会、高齢者サロン（すこやか茶和デイ）、二十歳を祝う会などの活発な催しが行われている。



「福祉まつり」による阿波おどり

- 昭和地区の広報紙や情報紙を活用できる。
- 「善意袋」発祥の地域である。

地区活動計画

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

情報発信により住民参加の場をつくる

- 昭和コミュニティセンター発行の「フレンドリーしょうわ」や徳島新聞専売所発行の「マイしょうわ」などがある。
- こうした情報源を活用して、若い人たちが昭和コミュニティセンター等に定期的集まり、参加できる地域行事が必要である。



地域情報紙

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

スーパーなどの協力を得て地域情報を発信する

●地域の方が利用するスーパーなどに、地域行事等の情報を設置協力依頼し、誰もが知り、参加できるように地域情報を発信する。



スーパーでの情報発信

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

多世代が集まる場を増やす

●子どもから高齢者まで、多世代が集まり、交流できる行事を増やしたい。



多世代交流事業

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

現在の活動をより多くの人に関わる形にする

●社会福祉協議会、民生・児童委員協議会、婦人会、町内会連合会等の各種団体が様々な活動を行っている。

●地域課題を全体で取り組むために、個々の活動から、より多くの人と一緒に参加できる形へと変えていく必要がある。

活動いろいろ



花の苗贈呈事業



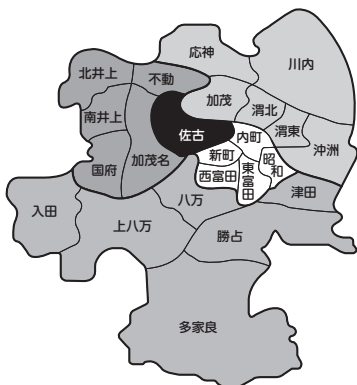
防犯パトロール事業



高齢者サロン
(すこやか茶和デイ)

⑥ 佐古地区

徳島市の北西部に接し、国道 192 号を中心に都市化が進み、人口も集中する地区です。



- 人口／世帯数 10,679 人／5,781 世帯
- 65 歳以上人口 3,651 人 (34.2%)
- 15 歳以下の人口 1,190 人 (11.1%)
- 人口密度 4,510 人／km²
- 主な公共施設
佐古コミセン、佐古小学校、JR 佐古駅など
令和 5 年 10 月 1 日現在

地域の強み

- 国道 192 号に沿って、多数の路線バスが通る。また、JR 佐古駅があり、近隣の多くの高校生が利用する。
- 眉山、万年山墓所、諏訪神社、佐古排水場などの地域資源がある。
- 佐古愛日連を結成しており、地域で一体となって阿波踊りを楽しんでいる。
- 高齢者が活動的で、人材も豊富である。



椎宮神社



万年墓所

地区活動計画

- 基本目標 1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標 2 地域福祉の担い手づくり

健康づくりの推進

- 町内会と連携して、夏休みにラジオ体操を実施している。高齢化率が高いので、特に健康づくりには配慮していく。



健康体操



ラジオ体操

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

子どもやPTA との連携を増やす

- 「子どもの笑顔をふやす町佐古」と連携して、子どもまつりを実施している。子どもが住みやすい地域づくりを行う。
- 小学校下校時には、有志でパトロールも実践する。



日曜子どもまつり

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

婦人会、学童など様々な団体と連携

- 婦人会と共同で防災訓練を実施しており、今後は更に充実した取り組みとなるように連携していく。



防災訓練

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
 基本目標2 地域福祉の担い手づくり
 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり
 基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

地域の生活環境の向上にむけて

- 地域の小売店や企業で、少額で利用できるサービスの一覧表をマップ化し、住民に配布していく。



伊予街道沿いの商店街

活動いろいろ このような活動も行っています



佐古愛日連

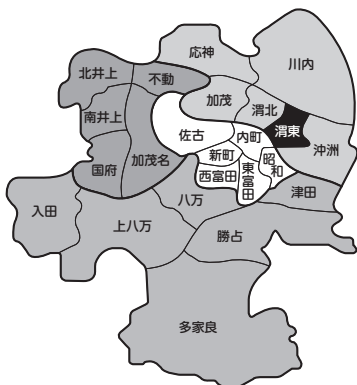


絆 作品展

7

渭東地区

徳島市の東部に位置し、吉野川と新町川の間に位置している地区です。



- 人口／世帯数 16,984 人／8,459 世帯
- 65 歳以上人口 4,840 人 (28.5%)
- 15 歳以下の人口 2,040 人 (12.0%)
- 人口密度 2,620 人／km²
- 主な公共施設

渭東コミセン、住吉・城東コミセン、渭東児童館、住吉・城東児童館、渭東保育所、福島幼稚園、福島小学校、城東小学校、城東中学校、徳島商業高校など

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 古くから「木工の町」と知られ、一時の隆盛期はないものの伝統産業として全国に知られている。
- 数多くの文化遺産や歴史遺産が町のあちこちに遺されている。
- 町の中心に近く、病院や商業施設等も充実しており、交通の便も比較的多いため、住みやすい町となっている。
- 阿波しらさぎ大橋及び徳島東環状道路の開通により、大型店が増加している。



福島橋



阿波しらさぎ大橋

地区活動計画

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

広報活動の強化

- 地区内では、お祭りや清掃活動など、様々な事業や活動などを行っている。
- 広報活動を強化し、多くの地域住民の方にその活動を知っていただき、より多くの方に参加していただけるようにしていきたい。



広報紙

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

防災活動の強化

- 滑東地区では、春と秋の防災週間に、地域団体と子ども達で、纏を先頭に拍子木を打ちながら防災パレードを実施している。
- 様々な災害に備えるために、防災訓練や避難所設置訓練などを強化していきたい。



防災パレード



総合防災訓練の様子

活動いろいろ

このような活動も行っています



河川敷清掃活動



紅豊花見の会

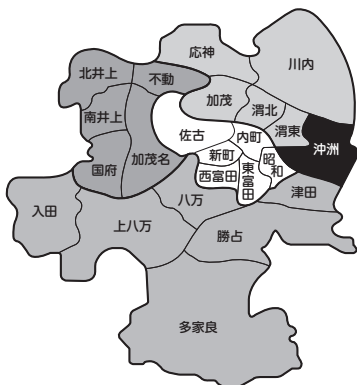


木工教室



芸能文化祭

9 沖洲地区



徳島市の東部に位置し、吉野川南岸河口部であり東部が海に面している地区です。

- 人口／世帯数 16,984 人／8,459 世帯
- 65 歳以上人口 4,840 人 (28.5%)
- 15 歳以下の人口 2,040 人 (12.0%)
- 人口密度 2,620 人／km²
- 主な公共施設

沖洲支所、沖洲コミセン、沖洲児童館、沖洲小学校、徳島市立高校、徳島市中央卸売市場、沖洲マリンターミナル、徳島県東部防災館など
令和5年10月1日現在

地域の強み

- 滑東ねぎの産地として有名である。
- マリニピア沖洲は、大規模な埋め立て地であり、工業地となっている。
- 大規模商業施設が立地している。
- 吉野川干潟は、自然とふれあえる場となっている。
- 徳島市で唯一の海路発着場がある。



沖洲インターチェンジ



滑東ネギ畑

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

夏休みラジオ体操の充実

- 沖洲小学校運動場にて夏休みに実施しているラジオ体操は、健康増進を図るとともに、子どもからお年寄りまで地域住民の交流の場となっている。
- 毎回 200 人以上の参加者が集まっているが、更に多くの地域住民が集えるイベントに発展させたい。



ラジオ体操の様子

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

ほっとサロンの開催

●75歳以上のひとり暮らし高齢者の方を対象とした催し。参加者の方は、久しぶりに会ったお友達とともにお話しやゲームを楽しみ、防災などの様々なテーマの講演会に耳を傾けている。更に充実した催しにしていきたい。



ほっとサロン

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

地域活動の広報強化

●沖洲地区では、オリエンテーリングや健康講演会など多くの地域の方々に参加していただきたい行事を数多く実施しており、広報活動に力を入れることで、更に多くの方々に参加していただく。



オリエンテーリング



健康講演会

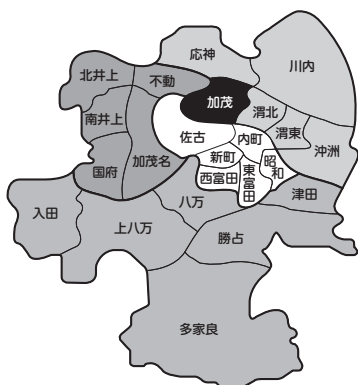
活動いろいろ このような活動も行っています



○沖洲コミュニティまつり
地域住民が力を合わせ開催する、地域にとっての一大イベント。

10

加茂地区



徳島市の北部に位置し、県道30号が東西に貫き、四方を河川に囲まれた地区です。

- 人口／世帯数 20,412人／9,612世帯
- 65歳以上人口 4,753人（23.3%）
- 15歳以下の人口 3,096人（15.2%）
- 人口密度 3,740人／km²
- 主な公共施設

加茂支所、加茂コミセン、千松幼稚園、千松小学校、城西中学校、城ノ内中等教育学校、城北高校、徳島科技高校、田宮運動公園など

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 東西に幹線道路が走っており、様々な店が建ち並んでいる。
- 子どもの人数が多い。
- 公共施設が数多く存在する。
- 地域の各種団体のつながりが強い。
- 周りを河川に囲まれており、水源が豊かである。



加茂地区文化祭



とくしまマラソンの
ゴール地点での活動

地区活動計画

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

若者世代の育成

- 現在行っている地域活動（福祉餅つき・バザーなど）を継続して行っていくためには、若い世代の方の協力が必要不可欠であり、今後地域の若者世代を巻き込んだ活動を推進していく。



福祉餅つき

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

加茂の夏祭りの充実

- 現在取り組んでいる加茂の夏祭りについて、子どもから高齢者までが一体となって楽しめる行事にしていく。
- 小学生の何でも発表会などを実施していく。



加茂の夏祭りの様子

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

災害にも強いまちづくり

- 災害にも強い地域にしていくために、子ども防災教室など、地域で実施している防災に関する取り組みを充実していく。



総合防災訓練

活動いろいろ

このような活動も行っています



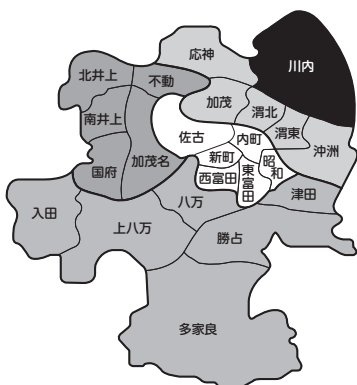
全町運動会



堤防清掃

11

川内地区



徳島市の吉野川北岸部に位置し、国道11号が南北に貫き、東部は海岸に面した地区です。

- 人口／世帯数 16,445 人／7,835 世帯
- 65 歳以上人口 4,607 人 (28.0%)
- 15 歳以下の人口 2,070 人 (12.6%)
- 人口密度 973 人／km²
- 主な公共施設

川内支所、川内公民館、川内幼稚園、川内小学校、川内中学校、川内南幼稚園、川内南小学校、小松海水浴場、阿波十郎兵衛屋敷、川内中土手3公園など

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 各種団体のつながりが強い。
- 大手企業の本社や本部が置かれている。
- 国道が通っており、郊外型店舗が数多く存在している。
- 高速道路のインターチェンジも存在し、アクセスに便利である。
- 多くの観光スポットが存在している。
- 一方で農業も盛んであり、なると金時ブランドの指定地域となっている。



川内三十三観音霊場の石仏様

地区活動計画

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

人権教育の強化

- 地域で小・中学生までもが一丸となって取り組んでいる人権教育について、更なる強化のために、更に数多くの参加を促すなどの呼びかけを行っていく。



人権研修会

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

ひとり暮らし高齢者の安否確認

●ひとり暮らし高齢者になっても、住み慣れた地域で元気に暮らし続けるために、地域が一体となって訪問活動を強化していく。



基本目標2 地域福祉の担い手づくり

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

災害に強いまちづくり

●来たるべき南海トラフ巨大地震に備え、地域で実施する防災訓練の回数や参加者を増やすなど、災害に強いまちづくりを行っていく。



避難所運営意見交換会

活動いろいろ

このような活動も行っています



川内地区二十歳を祝う会

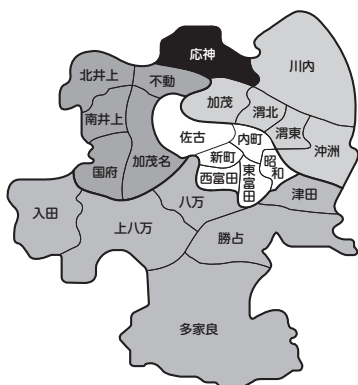


川内地区敬老会

12

応神地区

徳島市の北部に位置し、周りを吉野川と今切川に囲まれた地区です。



- 人口／世帯数 5,182人／2,626世帯
- 65歳以上人口 1,706人(32.9%)
- 15歳以下の人口 571人(11.0%)
- 人口密度 584人/km²
- 主な公共施設

応神支所、応神コミセン、応神公栄会館、応神幼稚園、応神小学校、応神中学校、徳島北高校、など
令和5年10月1日現在

地域の強み

- 住民のつながりが強い。
- 産業団地が存在し、多くの企業が入っている。
- 一方で、農業が盛んである。
- 市内初のコミュニティバス（応神ふれあいバス）が運行されている。
- 公立私立を含めて、学校が多く存在する。



応神コミュニティセンター



応神ふれあいバス

地区活動計画

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

友愛訪問活動の強化

- 高齢化が進んでいることから、友愛訪問活動の回数を増やすなどの強化を行い、高齢者が安心して暮らすことが出来るようにしていく。



友愛訪問活動

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

集いの場の実施

- 高齢者など誰もが気軽に集まって話ができるような場所を作っていく。
- また、住民同士が気軽に挨拶できるようなまちにしていきたい。



遊山箱（ゆさんくらぶ）

- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり
- 基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

救護や介護における研修会の実施

- 高齢化が進み、老老介護なども増えていることから、基本的な救護方法や介護方法の知識を得る機会を増やし、安心して暮らし続けることができる地域にする。



元気づくり体操

活動いろいろ このような活動も行っています



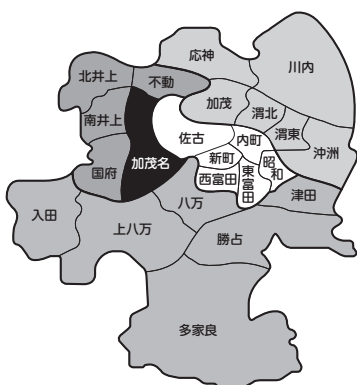
応神町文化祭



お花見会

13

加茂名地区



中心市街地の西部に隣接した市街地を形成し、徳島大学病院などが立地しています。

- 人口／世帯数 24,377人／12,584世帯
- 65歳以上人口 7,019人(28.8%)
- 15歳以下の人口 3,090人(12.7%)
- 人口密度 2,620人/km²
- 主な公共施設

加茂名支所、加茂名コミセン、加茂名保育所・名東保育所・島田保育所、加茂名幼稚園、加茂名小学校・加茂名南小学校・加茂名中学校、城西高校、県立看護学校、徳島大学病院、県立中央病院、JR 蔵本駅・鮎喰駅など

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 西部公園、袋井用水など、桜がきれいな所が多い。
- 徳島大学病院、県立中央病院を始め、医療機関が多い。また、老健施設の他、高齢者施設が多い。
- 独居老人宅お声かけ運動、友愛訪問、いこいの家、認知症カフェに取り組んでいる。
- 国道沿いを運行するバスは本数が多い。また、JR 蔵本駅・鮎喰駅があり、徳島駅周辺へのアクセスが良い。
- 学生マンションが多数立地することから、若者も多い。



袋井用水



名東カフェ

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

食や健康づくりによる地域づくり

- 食事サービス（宅配を含む）の充実を図る。
- 移動スーパーに来てもらう。
- 食事サービスの機会に、健康相談や健康チェックをする。



一人暮らし高齢者食事会

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

自主防災活動（避難訓練）

- 防災訓練を年2回開催する。（現在は1回）
- 防災訓練実施時には、民生委員がパンフレットを配布し、今まで参加していない人が参加できるように情報を届ける。あわせて、地域防災についての広報活動を行う。



防災訓練



防災訓練

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

西部公園など文化施設を守る活動

- 西部公園といった文化的な施設があることを住民に知ってもらう。
- 袋井用水清掃活動を行う。



西部公園



袋井用水清掃

活動いろいろ このような活動も行っています



防災研修

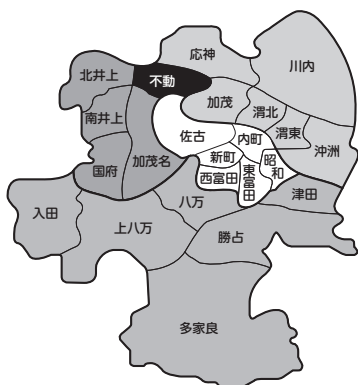


一人暮らし高齢者宅配

14

不動地区

北西部に位置し、北側に吉野川、東側に鮎喰川が流れ、豊かな田園地帯が広がる地区です。



- 人口／世帯数 2,243人／1,216世帯
- 65歳以上人口 957人（42.7%）
- 15歳以下の人口 123人（5.5%）
- 人口密度 380人／km²
- 主な公共施設

不動支所、不動コミセン、不動公民館、不動総合センター、認定こども園、不動小学校・中学校、徳島市食肉センターなど

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 不動さつき祭、ふるさと不動たなばた祭り、カローリング大会、クリスマス会などの催しが活発で交流が図られている。
- 不動認定こども園、不動小・中学校を合わせて不動学園と呼んでいる。地域と学園との交流がさかん。また、子どもの見守りなど、地域の方々から子どもを支えている。
- 赤池川ボランティアなど、地域美化に積極的。
- 寺社など、歴史的建造物がある。



四国三郎橋



鮎喰川堤防除草作業

地区活動計画

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

三大祭りを活用した地域の支え合い

- 不動3大祭り（さつき祭り・ふれあい不動夏まつり・ふるさとカーニバル）の内容を検討し、運営に、より多くの方に携わってもらい、地域活動の担い手を増やしていきたい。



ふるさとカーニバル

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

友愛訪問・楽友会の実施

●現在実施している友愛訪問や楽友会（お食事会）を継続し、敬老会やその他のイベントと連携することで、地域での支え合い意識を継承していく。



友愛訪問

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

自主防災会の充実（各地区）

●各地区にある自主防災会の活動を充実していく。



避難所設営

基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

各団体・学園の連携

- 各団体のリーダーを養成する。
- 活動の情報提供を行っていく。



徳島マラソン小学生演奏

活動いろいろ

このような活動も行っています



ふれあい不動夏まつり

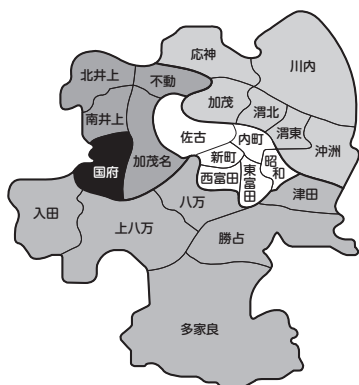


自主防災研修会

15

国府地区

徳島市の北西部に位置し、寺社や史跡、伝統工芸などの地域資源が豊富な地区です。



- 人口／世帯数 13,078 人／5,860 世帯
- 65 歳以上人口 3,876 人 (29.6%)
- 15 歳以下の人口 1,993 人 (15.2%)
- 人口密度 1,480 人／km²
- 主な公共施設

国府支所、国府コミセン、国府幼稚園・国府小学校・国府中学校、府中駅、考古資料館、史跡公園など

令和 5 年 10 月 1 日現在

地域の強み

- 自然が豊かで、阿波史跡公園・天狗久資料館、神社・寺があり、文化と歴史の町である。
- 府中の宮が子どもの遊び場として長年愛されている。
- 地域内交流が残っており、安心・安全の町。
- コミセンでの活動がさかん。
- マチコミ図書室が地域のコミュニケーションを図る場となっている。
- いのちの里、ふらっと KOKUFU などの障がい者施設があり、地域との交流が行われている。



天狗久資料館



マチコミ図書室



ふらっと KOKUFU

地区活動計画

基本目標 1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標 2 地域福祉の担い手づくり

ボランティアの育成

- 地域の交流が残っていること、コミセンの活動がさかんである強みを活かして、文化・歴史、自然環境の豊かさを活用した催しや情報提供を行い、多様なボランティアを育成する。



文化祭

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

文化・歴史・自然など PR

- かつて行われていた「五箇処参り」などを発掘してPRを行う。
- 史跡公園散策路(椿道)などをPRすることで、地元の人にもあらためて地域の良さを知って、活用してもらおう。



五箇処参り 常楽寺

基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

高齢者を対象とした食事会の充実

- コロナ禍で中止となっていたが、今後は実施回数や開催方法などを考えながら、今まで以上に高齢者の方に必要としていただけのように充実を図りたい。



高齢者食事会

活動いろいろ

このような活動も行っています



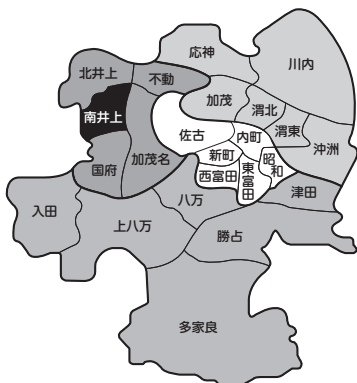
夏祭り バルーンアート



ゴミ拾い

16 南井上地区

徳島市の北西部に位置し、田園地帯が残る一方、住宅の建設が進む、人口増加中の地区です。



- 人口／世帯数 6,531人／2,691世帯
- 65歳以上人口 1,891人 (29.0%)
- 15歳以下の人口 1,034人 (15.8%)
- 人口密度 1,310人／km²
- 主な公共施設
南井上コミセン、南井上小学校
令和5年10月1日現在

地域の強み

- 市内23地区の中で人口増加の最も大きい町。
- 教育環境が良く、穏やかな地域。小学生の数が増えてきている。
- 子どもから大人まで一緒になった活動があり、コミュニケーションが密である。
- 隣近所と仲が良いので災害時に助け合うことができる。
- コミセンなどでフレイル予防を実践している。



多世代交流会

地域の問題

- 交通アクセスが悪く、今後高齢化が進むにつれて高齢者の交通サービスに取り組む必要がある。



体操教室

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

各種情報のPR

- コミセンを中心に各種団体が工夫をして、多くの事業を実施している。学校や各種団体との連携を図っている。
- これらの各種事業の情報を届けるため、CATV、広報誌、町内会のつながりを活用する。
- 回覧版による広報を行う。



広報紙

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

担い手や組織の後継者づくり

- PTA活動の側面からの働きかけ。
- 学校との連携や保護者への働きかけを継続する。
- 各種団体の活性化。
- お菓子づくりやコーラス、特に女性コーラスは活況であり、多世代で交流する機会を増やす。



コーラス発表会

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり
- 基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

独居高齢者の支援

- 独居高齢者を対象に、お食事会やふれあい訪問、花のプレゼントなどを行っている。
- 高齢者・障がい者など要支援者の正確な把握が必要。
- 必要とする人に必要な情報や支援を届ける。



独居高齢者食事会

活動いろいろ このような活動も行っています



消火訓練

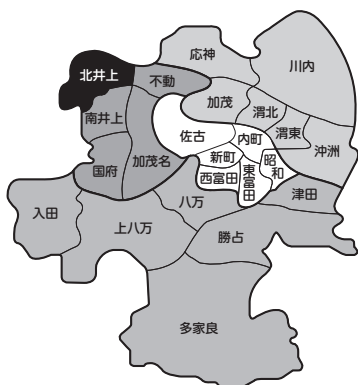


火おこし体験

17

北井上地区

北西部に位置し、吉野川と飯尾川に囲まれた、自然豊かで農業が盛んな地区です。



- 人口／世帯数 3,515 人／1,691 世帯
- 65 歳以上人口 1,426 人 (40.6%)
- 15 歳以下の人口 343 人 (9.8%)
- 人口密度 590 人／km²
- 主な公共施設

北井上支所、北井上コミセン、北井上認定こども園、北井上小学校・北井上中学校など

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 吉野川や飯尾川に囲まれた自然豊かで、農業がさかんな地域である。
- 遊休地には、夏にはひまわり、秋にはコスモスが植えられ、住民の目を楽しませてくれる。
- 生け花、カラオケ、いきいき百歳体操、卓球、グラウンドゴルフ、レクレーションダンスなど、多様なサロン活動や健康づくりが行われている。
- 町内会・自主防災会がある。
- 友愛訪問や一人暮らし高齢者のお食事会が行われている。



ひまわり畑



コミセンでの卓球

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

地域の見守り活動

- 各種団体に声かけを行い、地域での見守り活動を行っていく。
- 交流の機会を増やしていく。(次の交流の場づくりと連携していく。)



ふれあい昼食会

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

交流の場づくり

- コミセンを活用して、誰でも参加できる、参加したくなるイベントづくりをする。
- 高齢者も参加しやすい交流の場にする。
(交通面など)



生け花教室

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

後継者づくり

- 子どもの保護者や近所のつながりから交流の場に参加してもらい、そうした場を通じて人材を育成する。



昔の遊び

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

災害に強い地域づくり

- 防災訓練や研修会を通じ、災害に強い地域づくりを行う。



防災訓練

活動いろいろ

このような活動も行っています



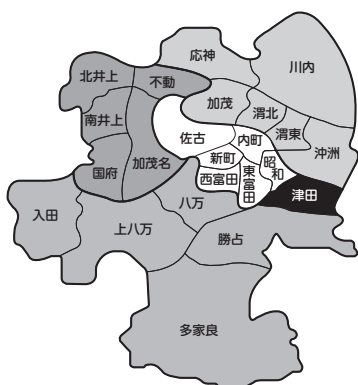
夏の水鉄砲作り



蜂須賀桜お花見

18

津田地区



徳島市の東端、勝浦川と園瀬川の狭間に位置し、東方は紀伊水道に面する漁師町です。

- 人口／世帯数 13,795 人／7,094 世帯
- 65 歳以上人口 4,543 人 (32.9%)
- 15 歳以下の人口 1,482 人 (10.7%)
- 人口密度 2,970 人／km²
- 主な公共施設

津田支所、津田コミセン、津田小学校、津田中学校、東消防署津田出張所、津田インターチェンジなど
令和 5 年 10 月 1 日現在

地域の強み

- 山・海・川があり自然豊かである。
- 昔からの海運と漁師町。
- 歴史的文化遺産が多く、地域の歴史や史跡をまとめ、史跡めぐりなど催しに活用している。
- 阿波狸合戦ゆかりの地でもある津田山が聳える。
- 防災意識が高く、防災紙芝居、防災ウォークなど多くの取組がある。
- 地域の団結力が強い。
- 学童保育が充実している。



津田地区
津田地区全景



津田港

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

「六右衛門まつり」で地域の活性化

- 「出会い・ふれあい・助け合い」をテーマに六右衛門まつりを毎年開催し、令和 5 年度で 26 回目を迎えた。
- 引き続き、コミュニティ協議会の各団体、幼小中、企業等に参加いただき、オールマイティーズ、全世代が参加できる「地域のまつり」として盛り上げていきたい。



六右衛門まつり

●そのため、老人会への招待、小中学校への参加依頼、地元企業への声かけのほか、民生委員や町内会など通じた、人を介した広報・案内も行っていきたい。

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり
- 基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

防災強化

- 自主防災会では、避難訓練や小中学生と防災訓練を実施している。また、コミュニティ協議会では、三世代交流「歴史・史跡めぐり&防災ウォーク」を実施している。
- 引き続き、避難訓練等を実施することで、参加者を増やし、地域での防災教育を推進していきたい。
- また、行政と連携して、避難所の整備を進めていきたい。



歴史・史跡めぐり&防災ウォーク



歴史・史跡めぐり&防災ウォーク

活動いろいろ

このような活動も行っています



観松庵清掃



木工教室



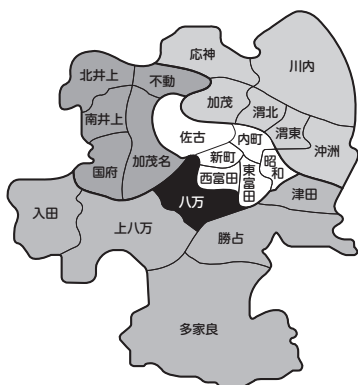
いきいき百歳体操



花植え

19

八万地区



中心市街地の南に接し、最も人口が大きい地区で、眉山、園瀬川など自然に恵まれています。

- 人口／世帯数 27,012人／13,207世帯
- 65歳以上人口 7,669 (28.4%)
- 15歳以下の人口 3,762人 (13.9%)
- 人口密度 2,380人／km²
- 主な公共施設

八万支所、八万中央コミセン、八万コミセン、八万小学校、八万南小学校、八万中学校、ふれあい健康館、文化の森総合公園など

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 徳島市の10%以上の人口を占めている。
- 文化の森総合公園があり、県の文教施設が集中している。
- 青パトや立哨による防犯活動、花づくり地域の環境美化、一人暮らし高齢者の食事サービスなどのさまざまな活動が行われている。
- 体協による町民運動会が開催され、多世代の住民が参加している。
- 各活動や催しを行う上で、各種団体との連携が取れている。
- 子ども食堂を開催している。



青パト



笑顔とどけ隊

地区活動計画

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

高齢者の居場所づくり

- 高齢者の居場所づくりとして、趣味の活動、体操教室、カラオケクラブなどの取組がある。
- 男性の参加が少ないので、参加しやすい内容や人を通じたアプローチなどを工夫したい。
- 住民同士がいろんなつながりができて、いろんな人と活動したり話ができるような場を目指していきたい。



いこいサロン



いこいクラブ

- 基本目標 1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標 3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり
- 基本目標 4 安全で安心して暮らせる環境づくり

学校との連携で防犯・非行防止

- 保護司や各種団体による小・中学校との連携ということで、青少年育成会で、月1回街頭補導を夜に実施している。
- 引き続き、多くの方に参加いただき、防犯活動を実施する。
- また、子どもたちを巻き込んだ活動をするすることで、学校との情報交換を増やして、非行防止につなげていきたい。



親子木工教室



親子木工教室

- 基本目標 1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標 4 安全で安心して暮らせる環境づくり

防災訓練

- 令和4年度は、大学生と一緒に街歩き防災訓練を実施した。
- 引き続き、大学生や他の若い人たちを巻き込んだ防災訓練やフェスタを検討していく。また、防災訓練に加えて、ミニ防災訓練を、多様な場所で実施している。
- 防災訓練の中で、見えてきた課題を、一つ一つクリアできるように、自主防災組織と連携して、多様な団体が集まって検討できるようにしていきたい。



ロゲイニング発電機



防災訓練

活動いろいろ

このような活動も行っています



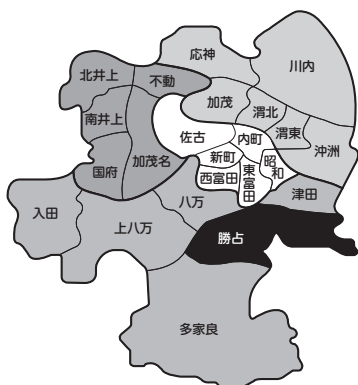
毎月2回、開催される子ども食堂



登下校時の立哨

20

勝占地区



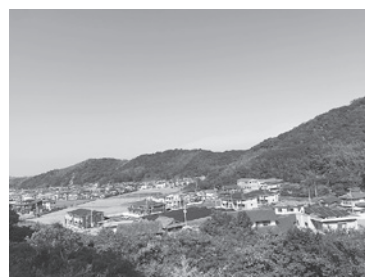
山地や勝浦川・多々羅川等の河川と大神子海岸等の魅力ある自然資源を有する地区です。

- 人口／世帯数 17,243 人／7,664 世帯
- 65 歳以上人口 4,963 人 (28.8%)
- 15 歳以下の人口 2,596 人 (15.1%)
- 人口密度 1,180 人／km²
- 主な公共施設

勝占支所、勝占中部コミセン、勝占東部コミセン、方上公民館、大松小学校、方上小学校、論田小学校、南部中学校、徳島市総合動植物公園、日峯大神子広域公園など
令和5年10月1日現在

地域の強み

- 西部に山地があり、その斜面でミカンなどの栽培がさかんである。
- 徳島市のベッドタウンとして住宅団地がある。
- ガラス工芸を発信するガラススタジオがある。
- 一人暮らし高齢者へのトイレトペーパーの配布や、一人暮らし高齢者の食事サービス（ほのぼの会）を開催している。



ベッドタウン



ガラススタジオ

地区活動計画

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

高齢者の見守り

- いまある一人暮らし高齢者への活動に加えて、地域での挨拶や声かけを積極的に行うことで、高齢者の見守りを強化していきたい。



基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

健康カフェの情報発信

- 健康カフェ（勝占東部）では、脳トレ運動等で楽しく体を動かした後に、珈琲を飲みながらおしゃべりをする気軽な場を提供している。
- このようなコミュニケーションできる場があるということをホームページや広報誌、口コミなどで発信していきたい。



健康カフェ

基本目標2 地域福祉の担い手づくり
基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

子どもの安全・見守り活動

- 今まで見守り活動をしていた方が、高齢化しているので、ボランティアの育成に力を入れていきたい。
- そのためには、地域で活動する人と学校との連携を強化していきたい。



防犯パトロール

基本目標2 地域福祉の担い手づくり
基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり
基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

防災訓練

- 防災マップ作りはできている。
- 防災倉庫の点検など（水の入替えや機械のメンテナンス）をしっかりと実施して、備えておきたい。



防災倉庫

活動いろいろ

このような活動も行っています



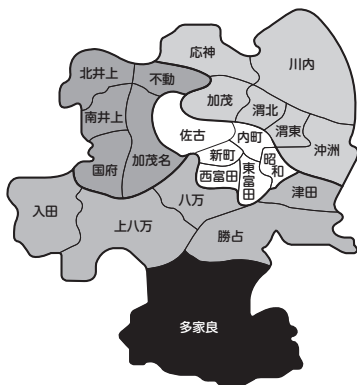
プランター配布



ほのぼの会

21

多家良地区



山地・丘陵地に囲まれた、農業がさかんで、自然や歴史文化資源に恵まれた地区です。

- 人口／世帯数 6,369 人／2,784 世帯
- 65 歳以上人口 2,319 人 (36.4%)
- 15 歳以下の人口 824 人 (12.9%)
- 人口密度 170 人／km²
- 主な公共施設

多家良支所、多家良中央公民館、八多分館、渋野公民館、飯谷公民館、多家良中央コミセン、丈六コミセン、渋野小学校、宮井小学校、徳島市総合動植物公園 など
令和5年10月1日現在

地域の強み

- 勝浦川・八多川に沿って開かれた農村地帯で、昔からの住民が多く、地域がまとまっている。住民同士が情報交換や世間話ができる関係がある。
- 面積が広く、徳島市の面積の約一割を占める。
- 勝浦川、中津峰、五滝、鳴滝、七釜溪谷などの自然に恵まれている。徳島市総合動植物公園のほか、犬飼農村舞台、丈六寺、渋野丸山古墳など歴史文化資源に恵まれている。
- 高齢化が進む中、ふれあいサロン・むつみ会・友愛訪問等の、高齢者のいきがづくりが行われている。



鳴滝



犬飼農村舞台

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり
- 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

「ふれあいサロン」「むつみ会」の開催

- コロナ禍で開催できなかった「ふれあいサロン」「むつみ会」が令和5年度後半から再スタート。
- 民生委員中心の運営であるが、ボランティアを増やしていくことが必要。
- 「在宅福祉員」のような、民生委員を応援するボランティアを増強して、若い世代のボランティアを確保していきたい。

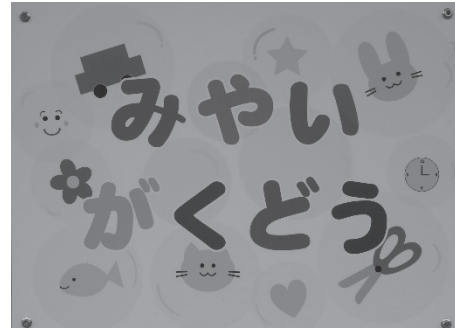


ボランティア研修会

基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

学童保育クラブの充実

- 学童保育クラブが令和5年4月にコミセン内に設置された。
- 高齢者だけでなく、子どもにも目を向けて、学童保育クラブの充実など、社会福祉協議会でも取り組みたい。



みやいがくどう看板

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

コミュニティバスの運用を目指す

- 多家良地区は、非常に面積が広く、バス停からの距離があり、不便な高齢者が多いということで、コミセンを中心に、コミュニティバスの運用を検討している。
- 行政機関や運行業者と連携し、運用を目指したい。



コミバス運営協議会



災害避難支援マップ
QRコード

基本目標2 地域福祉の担い手づくり
基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

自主防災連合会の強化

- 山林面積が広くて大雨による災害、土砂崩れ等が一番大きなポイント。
- 避難支援マップづくりに取り組んでいる。
- 防災士を増やし、各家庭における防災時の対応を指導できるような、個別の防災に対するサービスができるようにしていきたい。



自主防災訓練

活動いろいろ このような活動も行っています



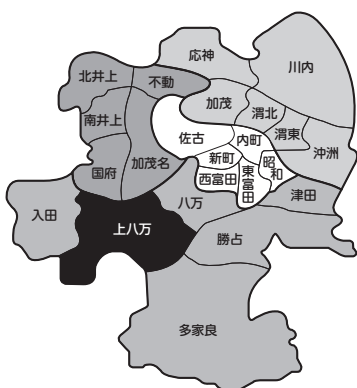
避難訓練における災害時簡易仕切設置の様子



多家良地区グラウンドゴルフ大会

22

上八万地区



鮎喰川、園瀬川と山地等に囲まれた自然豊かな地区で、丘陵地には大規模団地があります。

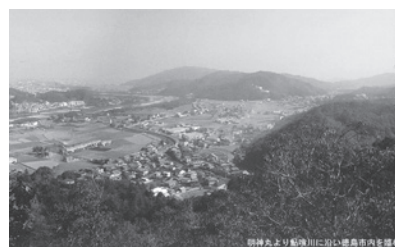
- 人口／世帯数 8,484人／3,985世帯
- 65歳以上人口 3,194人（37.5%）
- 15歳以下の人口 971人（11.4%）
- 人口密度 3,430人／km²
- 主な公共施設

上八万支所、上八万コミセン、一宮コミセン、上八万小学校、一宮小学校、上八万中学校、一宮配水場、しらすぎ台まちづくり活動センターなど

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 一宮城跡や大日寺などの名所がある。
- 宅宮神社の神踊り
- 文化祭での演芸会や作品展示
- コミュニティバスのったろうの運行
- 一宮小唄や上八万音頭を用いた地域 PR 活動
- 地域でウォークラリーの開催
- 地域の各種団体と連携し月1回の夜回り
- 小学校とコミセン、学童が連携した子育て支援



明神丸よりの上空写真



上八万町上空写真

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

75歳以上の食事会の内容を充実

- 75歳以上の方を誘い、年5回、食事会を開催。民生委員 社会福祉協議会が料理、配膳や、場所作りを行っている。
- 保健師に来ていただいて、血圧測定や健康相談を行ったり、全員タクシーで送迎したりと工夫している。時間がある時は、カラオケ、ビンゴ、手品などを行っているので、その内容を充実していきたい。



食事サービスコスモス会



食事サービスコスモス会

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

一宮小唄と一宮城跡保全活動

- 地区の地名や名所が歌詞に挙げられ地区の歴史文化について歌を通して継承
- 一宮城跡を守る活動と共に実施
- 地区内外の演芸会での発表



妖怪祭りで一宮小唄の発表

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

コミュニティバスのったろうの運行

- 地域住民の運行するコミュニティバス
- 地域住民の足になるように運行
- 地域住民や企業からの協賛により運行
- 住民の利便性を考慮し、マルナカまで運行範囲を延伸
- 買物や通院に利用する高齢者などの利便性の向上



コミュニティバスのったろう

基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり

上八万音頭を通して地域のPR

- 平成29年6月に、徳島市出身の芸能人椿欣也氏に振付も含めて作成を依頼
- 上八万地域の良さを歌詞に盛り込み、地区内外のイベントで発表する。
- 今後も、長く踊り歌い続けて、明るいまちづくりを目指していきたい。



上八万音頭

活動いろいろ このような活動も行っています



一宮城跡保全活動



上八万地区夏祭り

23

入田地区



市の最も西に位置する、山あいの盆地で、農業を中心とした自然豊かな地区です。

- 人口／世帯数 1,451 人／782 世帯
- 65 歳以上人口 613 人 (42.2%)
- 15 歳以下の人口 123 人 (8.5%)
- 人口密度 130 人／km²
- 主な公共施設

入田支所、入田コミセン、入田幼稚園、入田小学校、入田中学校、徳島市球技場、徳島刑務所、徳島市ライフル射撃場など

令和5年10月1日現在

地域の強み

- 自然が豊かで住環境がよい。
- 小学校では、自然を生かした、体験実習（田植え、稲刈り、鮎の放流など）がある。
- 住民同士が顔見知りで、仲間同士という感覚が残っている。情報伝達が早い。
- 1 人暮らし高齢者の友愛訪問などに加え、近隣同士で見守りができる関係が残っている。
- 球技場（サッカー・ラグビー）、ゴルフ場、ライフル射撃場、などスポーツができる環境がある。



町内上空写真



月の宮ゴルフ場

地区活動計画

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

一人暮らし高齢者の食事会と友愛訪問

- 一人暮らし高齢者の友愛訪問、食事会、研修会などを展開する上で、協力対応してもらえる地域のボランティアのグループを作る必要がある（詳細は次頁の「リタイヤ人材を活かす」参照）。
- ボランティアの協力を得て、現在の食事サービスを、シニア食堂やサロンづくりなどにしていくことも考えたい。



一人暮らし高齢者研修会



一人暮らし高齢者食事会

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
 基本目標2 地域福祉の担い手づくり

コミセンまつりの充実

- コミセンまつりには、現在もたくさんの方に参加いただいている。
- さらに老若男女の交流を深めていくように、内容充実や多様な活動に携わっている人の参画を広げていきたい。

- 基本目標2 地域福祉の担い手づくり
 基本目標3 包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり

リタイヤ人材を活かす

- 65歳から75歳までの退職後の人材を活用して、ボランティアや協力隊の育成を図っていく必要がある。

- 基本目標1 支え合いの意識を持った地域づくり
 基本目標4 安全で安心して暮らせる環境づくり

自主防災の強化

- 入田地区は山に隣接しており、土砂崩れなどの危険がある。近隣の見守り活動を通じて、お互いの防災の強化を図っていきたい。



コミセン祭り



文化財施設清掃ボランティア



町内上空（河川含む）写真



避難所資機材組立訓練

活動いろいろ

このような活動も行っています



百歳の祝い



高齢者健康講座

第6章 計画の推進に向けて

1 推進体制の構築

複雑化・多様化する課題に向き合い、地域が一体となって相互に支え合い、助け合う地域福祉活動を推進するためには、住民の自発的な取組と行政及び関係機関、社会福祉団体、NPO・ボランティア団体等それぞれの役割の発揮とつながりや協働が必要です。

本計画について十分に共有を図り、それぞれの取組が相互に連動することを意識した事業推進を図ります。

2 計画の進行管理と見直し

本計画の効果的な推進を図るため、本会の理事会、評議委員会、地域福祉活動計画策定委員会及び地区社会福祉協議会連絡協議会等において進行状況の報告を行い、意見をいただきながら取組を進めます。

また、第4期徳島市地域福祉計画の進行管理と連携を図りながら、問題点と課題を整理したうえで評価を行い、状況にあわせて見直しを行う等 PDCA サイクルによる進行管理を進め、次年度以降の事業計画に反映させていきます。

第7章 資料編

1 市民アンケート（徳島市実施）からみる現状

■地域域福祉に関する市民アンケート

区分	概要
調査の対象	徳島市民 2,000人 ※令和2年10月1日現在での年齢区分毎に、住民基本台帳より無作為に抽出
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査実施期間	令和2年12月9日～令和2年12月28日
回収状況	配付数 2,000人、回収数 730票、回収率 36.5%
グラフの見方	グラフ中の「N」はその質問の該当者数を表しており、回答率（%）は、そのNを基数として算出した。

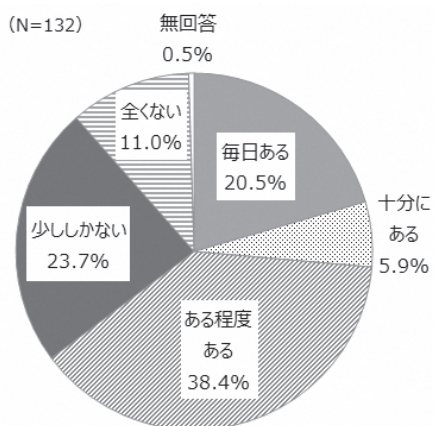
(1) 世代間交流

他世代との交流の機会をみると、「ある程度ある」（38.4%）が最も高く、次いで「少ししかない」（23.7%）、「毎日ある」（20.5%）などとなっています。

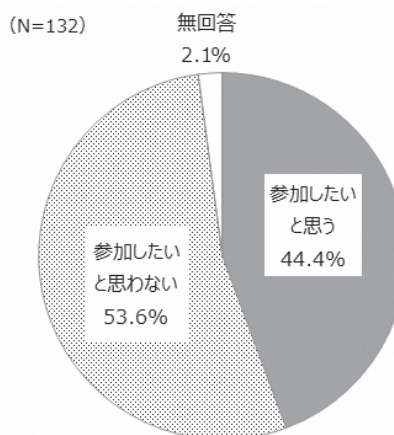
また、他の世代との交流の場に参加したいと思うかをみると、「参加したいと思わない」（53.6%）、「参加したいと思う」（44.4%）となっています。

参加したいと思わない理由をみると、『仕事・子育て・行事等で忙しく時間が取れない』、『地域交流自体に興味がない、自分の為に時間を使いたい』、『知り合いがいない、人との交流が苦手』といった意見が多く挙げられていました。

〈他世代との交流の機会〉



〈他世代との交流の場への参加意向〉

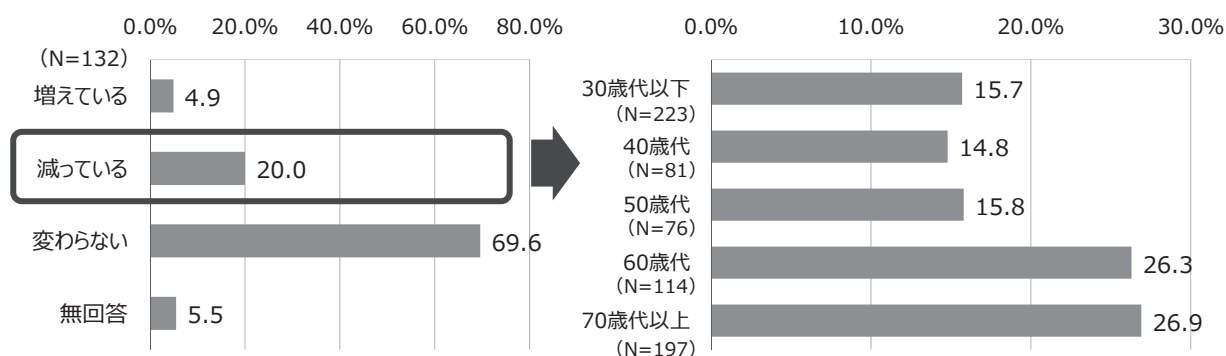


(2) 近所づきあい

近隣のひととの関わり方をみると、「変わらない」(69.6%)が最も高く、次いで「減っている」(20.0%)、「増えている」(4.9%)となっています。

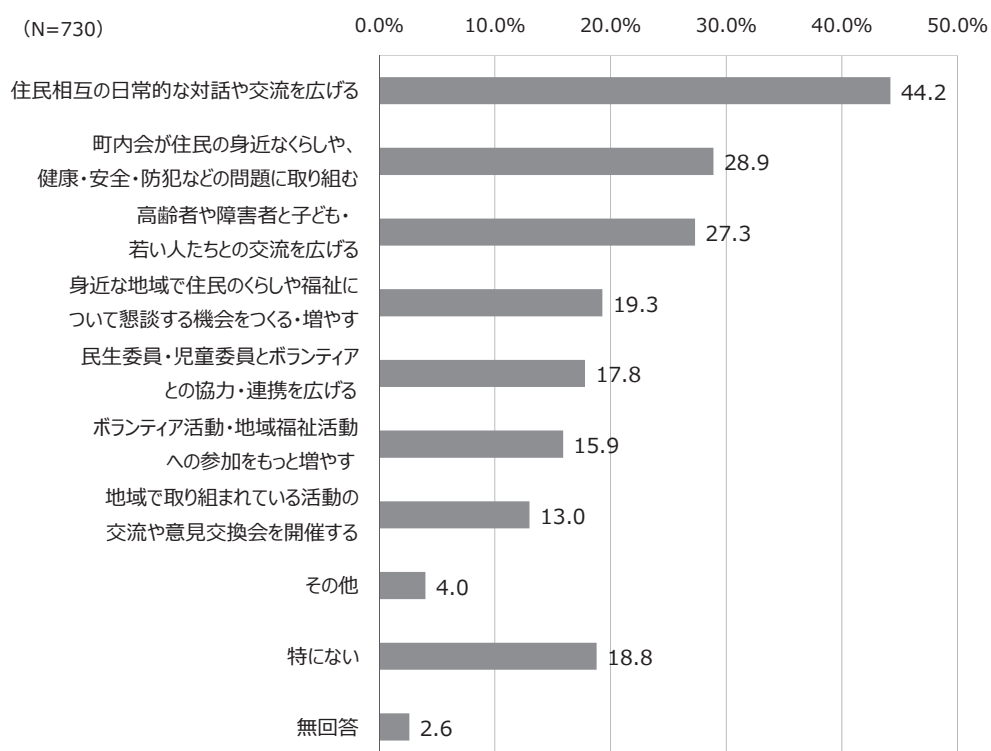
「減っている」を年齢別にみると、60歳代、70歳代以上で2割を超えています。

〈近隣のひととの関わり方〉



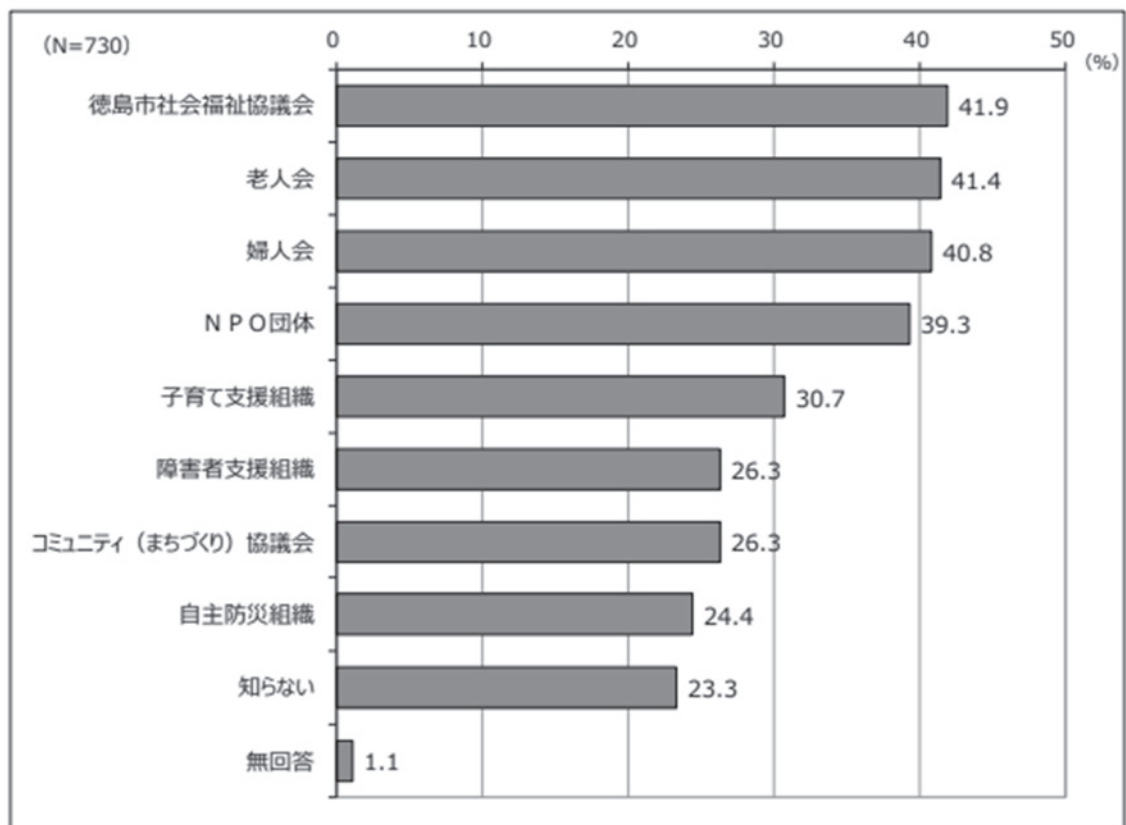
「だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現」を目指すうえで、住民が取り組むべきだと思うことをみると、「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」(44.2%)が最も高く、次いで「町内会が住民の身近なくらしや、健康・安全・防犯などの問題に取り組む」(28.9%)、「高齢者や障害者と子ども・若い人たちとの交流を広げる」(27.3%)、「身近な地域で住民のくらしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす」(19.3%)などとなっています。

〈住民が取り組むべきこと〉



(3) 福祉に関する各団体の認知度

福祉に関する各団体の知名度を見ると、「徳島市社会福祉協議会」（41.9%）が最も高く、次いで「老人会」（41.4%）、「婦人会」（40.8%）などとなっています。



2 事業所アンケート（徳島市実施）からみる現状

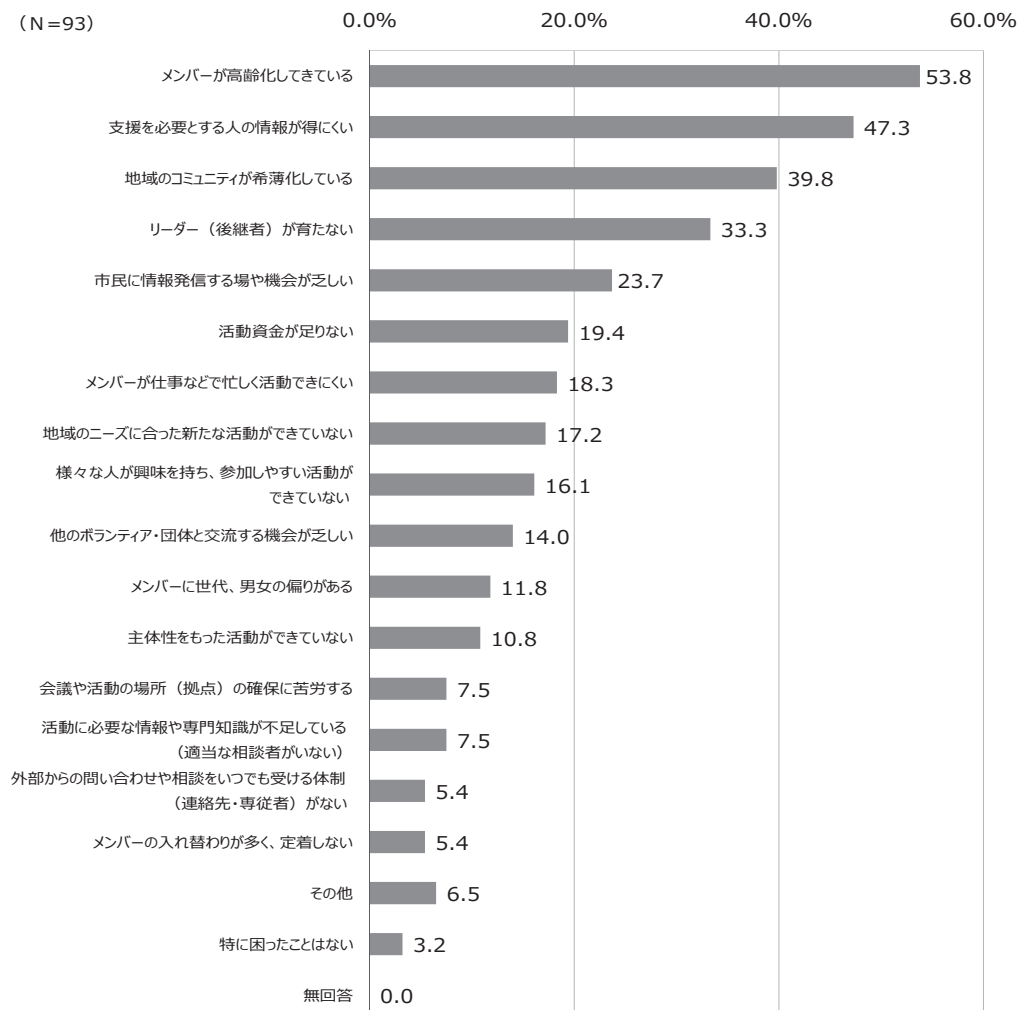
■地域域福祉に関する事業所アンケート

区分	概要
調査の対象	徳島市内の団体（事業所） 132団体
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査実施期間	令和3年1月13日～令和3年1月29日
回収状況	配付数 132 団体、回収数 93 票、回収率 70.4%
グラフの見方	グラフ中の「N」はその質問の該当者数を表しており、 回答率（%）は、そのNを基数として算出した。

(1) 福祉活動を行う上での問題点

福祉活動を行う上での問題点をみると、「メンバーが高齢化してきている」（53.8%）が最も高く、次いで「支援を必要とする人の情報が得にくい」（47.3%）、「地域のコミュニティが希薄化している」（39.8%）、「リーダー（後継者）が育たない」（33.3%）、「市民に情報発信する場や機会が乏しい」（23.7%）などとなっています。

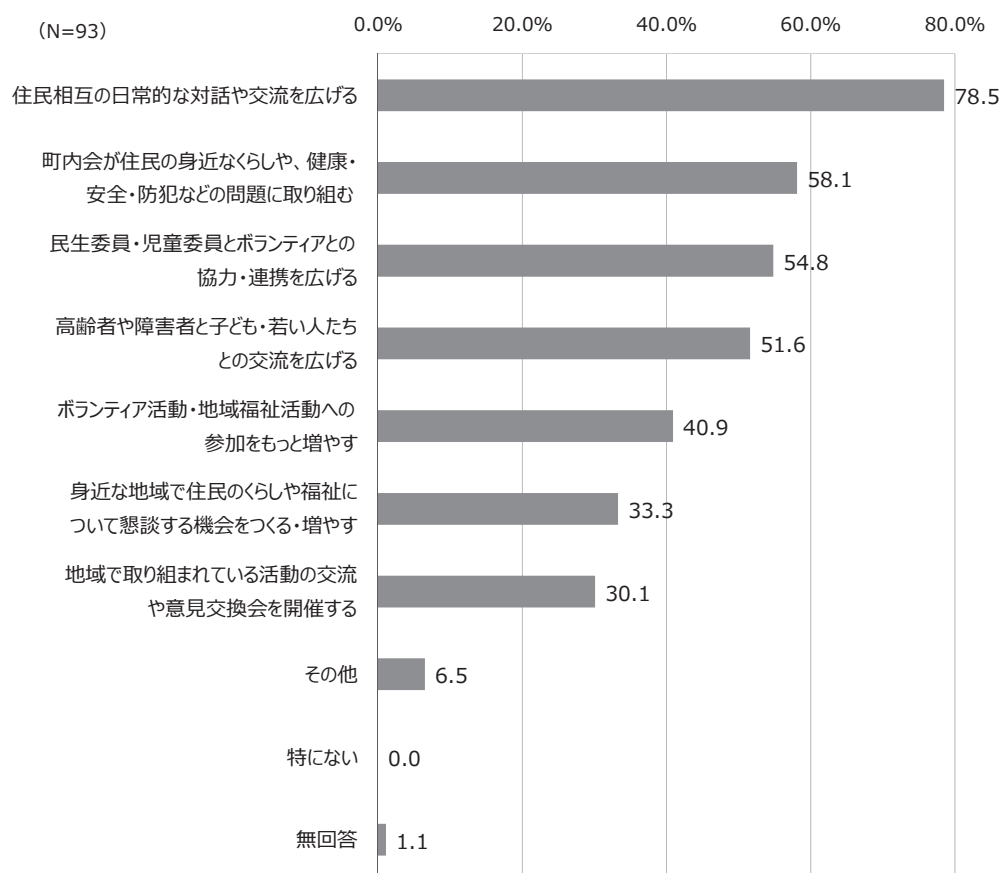
〈福祉活動を行ううえでの問題点〉



(2) 住民が取り組むべきこと

「だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現」を目指す上で、住民が取り組むべきことをみると、「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」（78.5%）が最も高く、次いで「町内会が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防犯などの問題に取り組む」（58.1%）、「民生委員・児童委員とボランティアとの協力・連携を広げる」（54.8%）、「高齢者や障害者と子ども・若い人たちとの交流を広げる」（51.6%）などとなっています。

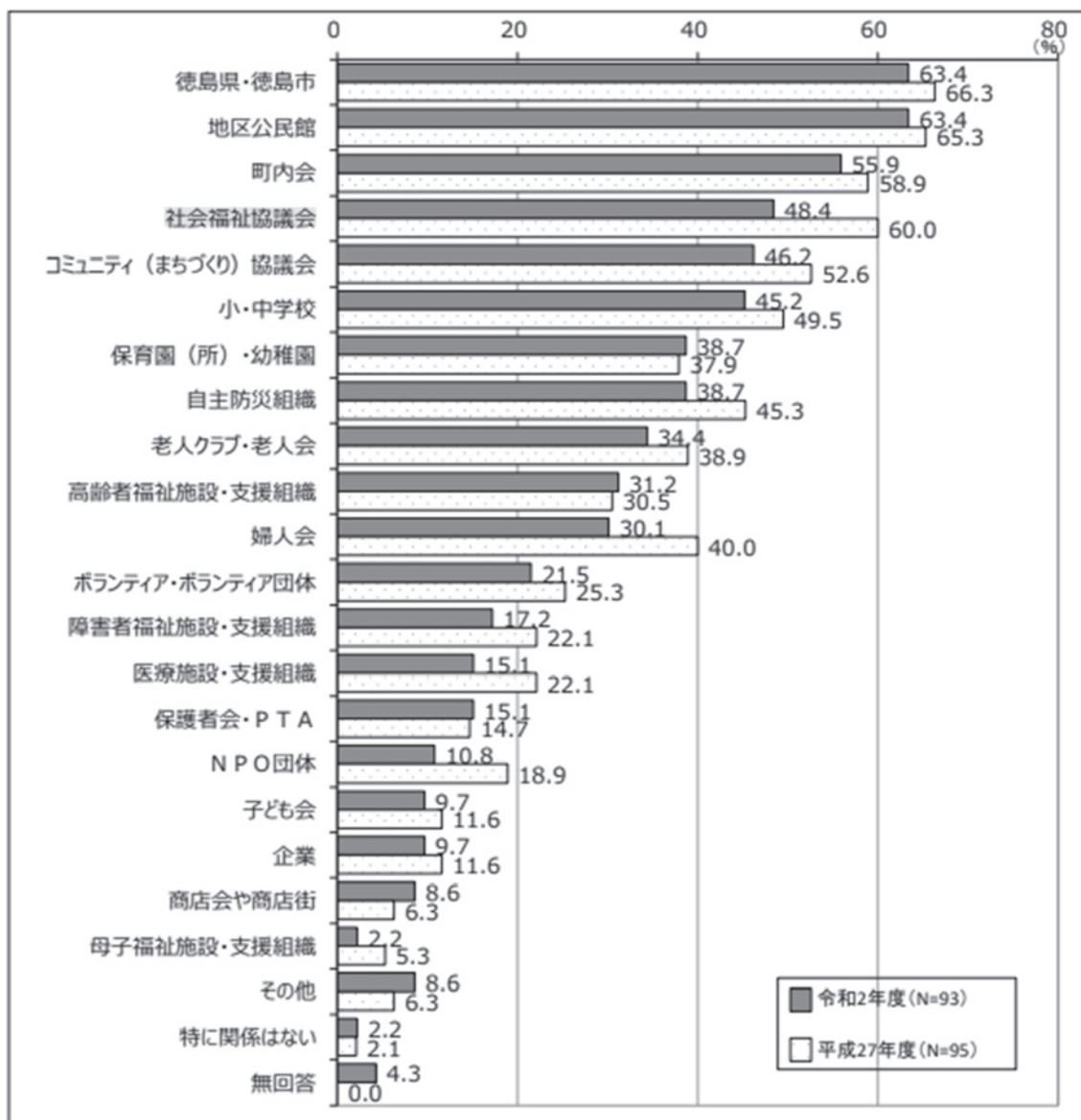
〈住民が取り組むべきこと〉



(3) 福祉活動を行う上で他団体等との連携状況

福祉活動を行う上での他団体との連携では、「徳島県・徳島市」、「地区公民館」（ともに63.4%）と最も高く、次いで「町内会」（55.9%）、「社会福祉協議会」48.4%、「コミュニティ（まちづくり）協議会」（46.2%）などとなっています。

前回調査（H27）と比較すると、全体として減少傾向が見られたが、「社会福祉協議会」は11.6ポイントと減少した割合が高くなっています。



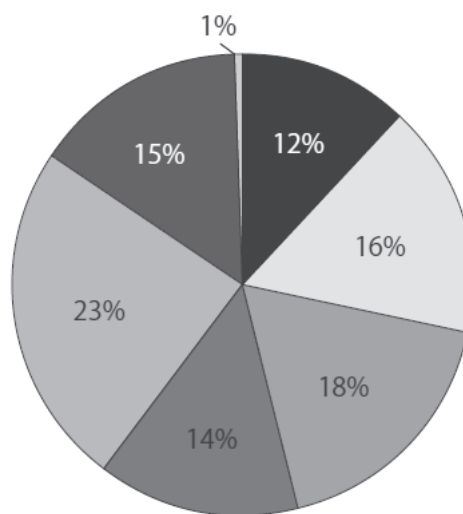
3 社会福祉法人アンケート（実施主体：徳島県社会福祉法人経営者協議会実施）から見る現状

■地域域福祉に関する事業所アンケート

区分	概要
調査の目的	徳島県社会福祉経営者協議会の徳島県内の社会福祉法人の課題を把握し、今後の年間の注記行動計画を策定することを目的にアンケート調査を実施する。
調査の対象	徳島県社会福祉法人経営者協議会会員法人 149 法人
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査実施期間	令和3年7月26日～令和3年8月23日
回収状況	配付数 149 法人、回収数 87 法人、回収率 58.4%

(1) 社会福祉法人の「地域に向けた公益的な取組」で地域生活課題へ期待される実践

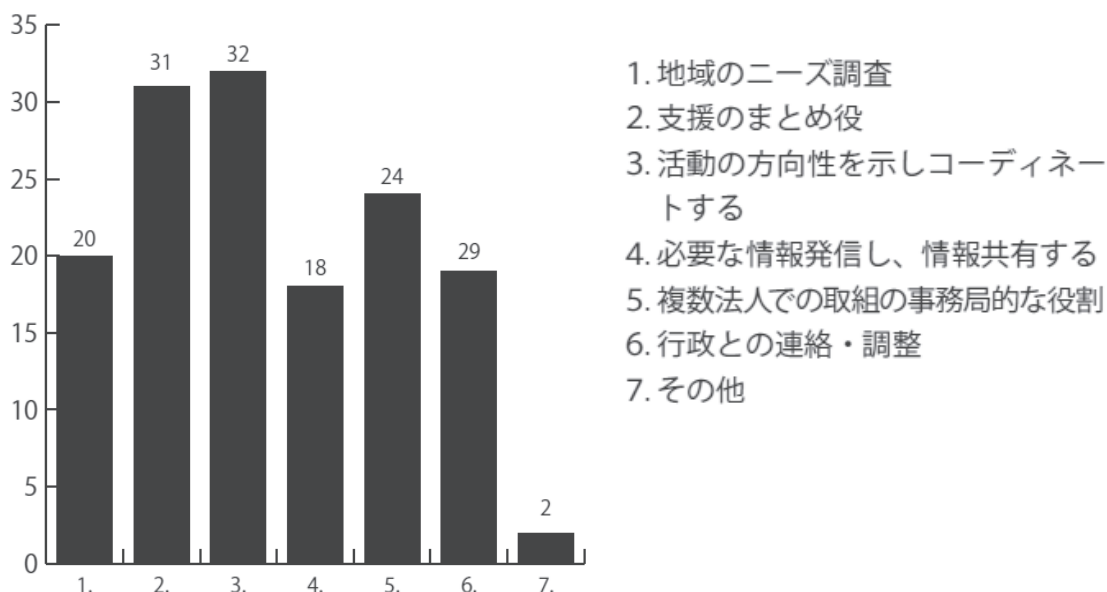
「地域における公益的な取組」において社会福祉法人に期待される役割について、多様化・複雑化する地域生活課題に対応していくための実践については、「地域の他機関とのネットワーク活動」23% が若干高い割合であるが、その他は同程度に実践が必要と考えられています。



- 1. 生活困窮者支援
 2. 福祉教育活動
 3. 地域の社会的な援護を必要とする者への支援
- 4. 他の社会福祉法人や団体等との共同の事業展開
 5. 地域の他機関とのネットワーク活動
- 6. 地域活性化の取組
 7. その他

(2) 地域生活課題に複数の法人が対応する場合、社会福祉協議会に期待する役割

複数法人で連携を実施する場合に社会福祉協議会に期待される役割は「支援のまとめ役（31%）」31、「活動の方向性を示しコーディネートする（32%）」で、連携の核となり運営の調整を行うこととなっています。



4 地域福祉に携わる様々な主体（徳島市地域福祉計画から抜粋）

本計画の目標を達成し、地域福祉を推進していくためには、地域住民の参加を促進するとともに、福祉事業所・団体、社会福祉協議会、行政などの地域福祉に携わる主体が相互に協力し、地域課題の解決に向けて、取組を推進することが重要です。

また、「地域共生社会」の実現には、地域に根ざした助け合いが必要なため、各主体の「自助」、「互助」、「共助」、「公助」が行われやすい環境の構築を図り、総合的、長期的な視点から各目標の達成に向けて取り組む必要があります。

このため、次のような役割のもとに協働体制による計画の推進をめざします。

〈改正社会福祉法〉

（地域福祉の推進）

第四条② 地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者（以下「地域住民等」という。）は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

（1）地域住民に期待する役割

市民一人一人が地域福祉に対する意識や認識をより一層高め、自分たちが地域づくりの主役であることの自覚を持つことが大切です。自分たちの生活する地域の現状や課題について関心を持ち、お互いに支え合いながら市民同士の活動を通じて地域福祉を実現することが期待されます。

(2) 福祉事業所・団体等などに期待する役割

福祉事業所は、福祉サービスの提供者として、利用者の自立支援、サービスの質の確保、利用者保護、事業内容やサービス内容の情報提供及び公開、他のサービスとの連携など、専門性を生かして、積極的に地域福祉の拠点としての役割を担うことが期待されます。

また、ボランティアやNPOをはじめとする団体等には、地域の支え合いの活動主体として、地域福祉活動の実践や地域の生活課題の解決に向けて柔軟に対応するとともに、地域住民に向けた活動参加の受け皿を提供することが期待されます。

(3) 社会福祉協議会の役割

社会福祉協議会は、社会福祉法により、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体として位置付けられ、地域における福祉関係者や関係機関、団体等と連携し、地域の連帯と支援の輪を広げていくという重要な役割を果たすことが期待されます。

そのため、計画の各分野で住民、ボランティア、福祉団体等と協働して地域福祉の推進を先導できるよう、社会福祉協議会の機能を強化します。

(4) 行政の役割

本市は、地域福祉の向上を目指して福祉施策を総合的に推進していく役割を担っており、関係する保健、医療、環境、雇用、住宅、教育など幅広い分野の部署と連携を強化し、一体となって施策を推進します。

また、住民が積極的に地域福祉活動に参加できるよう、参加の機会や情報の提供など、必要な支援を行います。

5 計画策定にあたって

(1) 徳島市地域福祉活動計画策定委員会について

①設置要綱

社会福祉法人徳島市社会福祉協議会地域福祉活動計画
策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 徳島市における地域福祉の推進を図るため、社会福祉法人徳島市社会福祉協議会（以下「本会」という。）に地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 活動計画の策定に関すること
- (2) その他活動計画の策定に必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。また委員数は、15名以内とする。

- (1) 学識経験者
- (2) 福祉関係団体関係者
- (3) 行政関係者
- (4) 本会役員
- (5) 本会会長が必要と認める者

2 委員会の委員は、本会会長が委嘱する。

3 本会会長は、必要に応じてアドバイザーを若干名委嘱することができる。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、委員会の所掌事務が終了するまでとする。

(委員長および副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員長が特に必要と認める場合は、代理出席を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、本会地域福祉係において行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が定める。

附 則

1 この要綱は、令和4年6月1日から施行する。

2 この要綱による最初の委員会の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、本会会長が招集する。

②委員名簿

令和4年度

後藤 正暁	徳島市民生委員児童委員協議会 会長
佐伯 雅子	NPO 法人徳島こども食堂ネットワーク 理事長
島田 和男	徳島市コミュニティ連絡協議会 会長
◎白山 靖彦	徳島大学大学院 教授
菅惣 美津子	徳島市地域包括支援センター 管理者
藤田 稔	徳島市社会福祉協議会 常務理事
船戸 まさみ	障害者生活支援センター眉山園 次長
森口 泰治	徳島市子ども未来部 副部長
山尾 士朗	徳島市健康福祉部 副部長
○山下 善正	徳島市地区社会福祉協議会連絡協議会 会長
吉田 高志	徳島市市民文化部 副部長

アドバイザー

山田 信人	徳島県社会福祉協議会地域福祉課 課長補佐
-------	----------------------

◎委員長、○副委員長

(五十音順、敬称略)

令和5年度

木村 洋一郎	徳島市民生委員児童委員協議会 会長
佐伯 雅子	認定 NPO 法人徳島こども食堂ネットワーク 理事長
島田 和男	徳島市コミュニティ連絡協議会 会長
◎白山 靖彦	徳島大学大学院 教授
田村 茂生	徳島市市民文化部 副部長
野口 詠司	徳島市地域包括支援センター 管理者

藤田 稔夫	徳島市社会福祉協議会 常務理事
船戸 まさみ	障害者生活支援センター眉山園 次長
三好 一文	徳島市子ども未来部 副部長
八幡 建志	徳島市健康福祉部 副部長
○山下 善正	徳島市地区社会福祉協議会連絡協議会 会長

アドバイザー

山田 信人	徳島県社会福祉協議会地域福祉課 課長補佐
-------	----------------------

◎委員長、○副委員長

(五十音順、敬称略)

(2) 会議開催内容

①策定委員会

第一回策定委員会

開催日：令和4年7月4日（月）15：00～16：30

議 題：Ⅰ 計画策定の概要・基本的な考え方について

Ⅱ 計画策定のスケジュールについて

Ⅲ 徳島市の地域福祉を取り巻く現状について

Ⅳ その他

第二回策定委員会

開催日：令和6年2月15日（月）15：15～16：45

議 題：Ⅰ 徳島市地域福祉活動計画（素案）について

②地区説明会

徳島市地域福祉活動計画策定説明会

開催日：令和4年9月16日（金）10：00～11：30

出席者：各地区社会福祉協議会会長等

議 題：Ⅰ 地域福祉活動計画策定について

Ⅱ 徳島市における住民主体の取り組みについて

③地区計画策定ワークショップ

Ⅰ 西部ブロック

開催日：令和5年1月30日（月）13：30～15：30

開催場所：南井上コミュニティセンター

参加地区：加茂名地区、不動地区、国府地区、南井上地区、北井上地区

Ⅱ 中央ブロック

開催日：令和5年3月15日（水）13：30～16：00

開催場所：ふれあい健康館

参加地区：内町地区、新町地区、西富田地区、東富田地区、昭和地区、佐古地区

Ⅲ 南部ブロック

開催日：令和5年8月10日（木）13：30～16：00

開催場所：ふれあい健康館

参加地区：津田地区、八万地区、勝占地区、多家良地区、上八万地区、入田地区

Ⅳ 東部ブロック

開催日：令和5年10月13日（金）13：30～16：00

開催場所：加茂コミュニティセンター

参加地区：渭東地区、沖洲地区、加茂地区、川内地区、応神地区

開催の様子



西部ブロック



中央ブロック



南部ブロック



東部ブロック

④職員意見交換会

開催日：令和6年1月11日（木）16：00～17：00

令和6年1月12日（金） 9：00～10：00

■作成・発行

令和6年（2024年）3月

社会福祉法人徳島市社会福祉協議会

〒770-8053

徳島市沖浜東2丁目16番地 ふれあい健康館3階

電話：088-625-4356

FAX：088-625-4377

HP：<https://shakyo-tokushima.e-tokushima.or.jp/>